

'73

(株)三景は企業の繁栄を通じて
より豊かな生活、
より明るい社会を創造する。

繊維専門商社 株式会社 三景



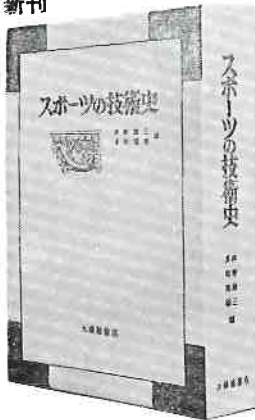
グループ本部 東京都千代田区岩本町3-2-10 〒101

(株)北越三景 (株)東京三景 (株)甲商三景 (株)大阪甲商三景
(株)サンレディ (株)サンワード (株)サンライン

スポーツの技術史

近代日本のスポーツ技術の歩み

新刊



菊判・656頁・上製函入
定価2500円

東京教育大学教授 岸野雄三 編
東京教育大学助教授 多和健雄

●近代スポーツの歩みを技術史的にとらえた日本における近代スポーツの歩みを、技術史的な視点からたどり、各スポーツ種目ごとの発展の概要をのべたユニークなスポーツ史である。各種スポーツの意味を技術史的に吟味し、それを通じて、人間とスポーツとの文化的な深さを追求したもので、体育・スポーツ関係者の格好の教養書である。

【収録種目】 ①体操 ②陸上競技 ③競泳
④柔道 ⑤剣道 ⑥レスリング ⑦バスケットボール
⑧ハンドボール ⑨バレーボール
⑩サッカー ⑪ラグビー ⑫野球 ⑬テニス
⑭卓球 ⑮バドミントン

荒川清美・石井喜八著
ようやく国際的水準に到達したハンドボール競技の普及・向上に骨身を惜しまず尽力されている著者が、長い間の研究成果を独自の撮影技術による豊富な写真により解説した待望の技術書。

A5判一四〇頁 定価五〇〇円

写真と図解による

ハンドボール

大修館書店

〒101 東京・神田錦町3-24 振替/東京40504 ⑧294・2221<大代表>

巻頭を飾る「理事長登壇」も15回目。今月はこれまで執筆された各理事長による日本協会への要望に対しての回答、そして新年度開幕というタイミングを合わせて、日本協会のけん引者・荒川清美理事長に「登壇」願った。

「理事長登壇」を毎月読まれて、どう感じられるか

荒川理事長 地域社会に貢献しようとする底辺の活発な動きを知り有りがたいことだと思っている支部、地区などの組織の多くは有志の自発的行動によって発足するケースが多いようだが、今後は各都道府県協会も、積極的に市協会、町協会などの育成を心がけて欲しい。

——地方振興策、底辺対策を望む声が強いが、

理事長 日本協会施策としてももちろん考慮しているが、やはり「未開発地」に対する普及は、各都道府県協会が指導者の派遣などでまずバックアップすべきだと思う。日本協会という大きなかたまりが、いきなり小さな単位を対象とするとかえってマイナスな面も生じる。

日本協会レベルで底辺のための事業として考えているのは、クラブの全国組織化と好カートの地方進出(転戦)、公認指導員制度、ブロック別講習会などだ。

——クラブの全国組織化とは、
理事長 例えば、全国各県一斉に4～9月までの間に「県内クラブ大会」を行い、10～11月に「ブ



理事長登壇 ⑬

荒川清美理事長 に聞く

——PR対策がもう一歩足りない、という意見も強いが

理事長 消極的かもしれないがPRすべき価値と力のある事業を計画し、実行できなければ根のしかりとしたPRにはならないと思う。一時的にマスコミへ話題を提供するだけで、すぐ消えてしまっただけはマイナスだ。

——現段階では「報道関係に信頼される競技団体となれ」をモットーとして動いている。
——ところで、理事長は、新年

度の抱負として「国内体制の強化」をあげているが

理事長 これは、各層にわたっての組織づくりという意味だ。前述のクラブ大会もその一つだし、少年ハンドボールの育成に対しては、系統だてたい。

各都道府県協会には、日本協会を支える組織であるということをも改め認識してもらいたいし、プロックという単位も、ただ国体の予選などを開くだけの存在ではなくどしどし事業を進めて欲しい。例えば、プロック選抜、プロック

た、とも考えている。

——日本の場合、学連、実連、教職員連といったヨーロッパなどない団体がある。これらと日本協会の関係は今後どうなるだろう
理事長 それぞれの連盟は基礎もできあがっており、長い慣習もあるが、日本協会の細胞はあくまで都道府県協会である。加盟団体協議といったものを造って、日本協会施策に側面援助してもらおうようなつきあいかたをしたい。日本協会とはなれた加盟団体間事業——例えば学生×実業団、実業団×教職員、学生×自衛隊対抗戦なども考えて欲しい。

全日本のチャンピオンシップ(総合選手権)は各都道府県あるいは各プロックのチャンピオンによって争うように改正を思案中だ。
——4選の任期も後半、将来構想を最後に聞かせて下さい
理事長 「事業収入の安定化」をなんとか考え出したいし、女性(OG)を運営面、競技面(トレナー、レフェリー)へ登用するムードをつくりたい。

——近年、日本協会事業の巨大化、国際化はめざましいものがあるが、運営体制、運営感覚に新しい波が必要ではないか。
理事長 旧来の体質だけではたしかに、すべてを乗り切れない。法人化の研究を進めているのもその一つの現れだ。各分野をプロジェクト化し、専門委員を拡充し

頂点強化については、全日本A、B、ヤング全日本の「三段階システム」を確立したいし、「3部(技術審判)普及・合同・会議」は少々時間がかかっても、権威のある機関として成長させるつもりだ(4月15日・体協スポーツマンクラブにて。文責編集部)

「ハンドボール」

49年5月号(第119号) 目次

- 理事長登壇⑬……荒川清美……(1)
- IHFへ新提案……(2)
- 今夏に教員養成大学研修会……(3)
- 実業団女子、韓国へ……(3)
- 「スタジオン」招待シ
リーズ……(4)
- 日本実業団リーグ近づく……(8)
- 海外トピックス……(11)
- 頂点強化、再点検を……
……光島磯雄……(12)
- 木野、公式国際50試合……(14)
- ◇写真特集・
世界男子選手権……(15)
- ◇レポート・
世界男子選手権……(20)
- BSタイヤで「社技」に……(31)
- 各地の記録……(31)
- 明日への提言……(32)
- 編集後記……(32)
- 【表紙写真】 スタジオンI F (デンマーク) × 全日本。自信たっぷりな佐藤の7MT(4月8日京都・撮影・光島磯雄)

五輪女子に3大陸 (アフリカ)代表を

日本協会 I H F へ公式提案決める

日本協会は、4月20日の月例常務理事会(東京)で、モントリオール・オリンピック(昭51)の女子出場国として、3大陸(アジア、アメリカ、アフリカ)の代表1ヶ国を認めるよう、I H F(国際ハンダーボール連盟)に要望することを決めた。今秋の第15回I H F総会の議題に公式提案手続きをとる。

モントリオール・オリンピックの女子は、6ヶ国の総当りによって行われ、その出場国は、開催国・カナダと来年12月キエフ市(ソビエト)で開く第6回世界女子選手権の上位5ヶ国に内定したと伝えられていたが、日本協会では、かねてから「大陸」無視のこの法に疑問を抱き、I H Fに対し、再検討を望む道を研究していた。

一方、アジア大陸選出のI H F理事渡辺和美氏(日本協会副会長)は、現在の実力分布から、世界選手権の上位5ヶ国は、いずれもヨーロッパ地域に独占される可能性が強いとして、今春3月、アメリカ

カ大陸選出のビューニング理事(アメリカ)、アフリカ大陸選出のフアダリ理事(エジプト)と談合した。

その結果、モントリオール・オリンピック女子の出場国を「開催国、世界女子の上位4ヶ国、3大陸代表1」と共同提案することにまとまった。

渡辺I H F理事は、月例常務理事会でこの旨を説明、田村会長はじめ出席した各常務理事も異議はなく、今秋10月4、5日ヴェニス(イタリア)で開かれる第15回I H F総会へ公式提案することに決まったもの。

早急に新しい方向を打ち出すことを決め、男女ナショナルチームの監督各1名をノミネート、両監督と渡辺(慶)技術部長によって、4月中にコーチングスタッフの候補者をリストアップ。執行部の承認を受けたのち、ただちに、49年度男女ナショナルを選衡するとい

ろ基本線を決めた。

これによって、注目の新ナショナルチームは、早ければ6月初旬にスタートできそうである。

選手数については、日本協会・荒川理事長が構想としている24名以内を守ることになるが、欧州式にA、Bに分けての強化は日本の実情に合わないのではないか、との意見もあり、当分の間、24名を一

括し、機をみて、A・Bに二分する方法が採られそうだ。また、一般へのアピールとして49年度ナショナルを、男女とも「モントリオール第一次候補選手」と呼ぶことは確定的である。

すべて全日本が対戦か

今秋の東ドイツ交流
日本協会は、4月20日の月例常務理事会で、今秋の第1回東ドイツ招待(男子、日本体協交流事業)につき協議、8月29日來日、9月9日帰国の12日間の日程で5(6)試合、原則として、日本側の対戦チームは、すべて全日本とすることを申し合せた。

試合地については、東京2、名古屋1、関西地区2とし、東ドイツ側が6試合を了解した場合に関西地区で3試合を行う予定。

3部合同 注目の頂点強化新機会会議 構・3部(技術、審判、普及指導)合同会議の初会合は、4月15日東京で開かれた。

前日に予定された技術部委員会が21日に繰り下がり、強化施策についての具体的な協議は行えず、同会議の今後の運行について話しあったにとどまり、まとまった決定は特になかった。各部から推せんされたスタッフは次のとおり。

技術Ⅱ 渡辺慶寿、北川勇喜、近藤金博、審判Ⅱ 安藤純光、岡前義春、佐野和夫、普及指導Ⅱ 宮本西嗣、山田哲雄、高田日呂美

まずコーチ陣を選出

新頂点強化すべしだす

日本協会技術部は、4月21日東京で新年度初の全国委員会を開き、今後の男女頂点強化対策について約5時間にわたり話しあった。

その結果、2月の全国会議(評議員会、理事会)で議決された頂点強化のプロジェクト化にそって

近代化を誇る
湧永薬品広島工場

湧永薬品株式会社



本社/大阪市福島区上福島南3-142 TEL. 06-458-8901-5
東京支店/東京都港区三田2-7-16 TEL. 03-451-6996-7891

支店/横浜・名古屋・大阪・広島・福岡・札幌
工場/広島・和歌山

8月29日から4日間

初の全国教員養成大学研修会

日本協会は、文部省の補助をうけることが決まった「全国教員養成大学ハンドボール研修会」の実施について検討を進めていたが、このほど、今夏8月29日から9月1日までの4日間、東京・オリンピック記念青少年総合センターで行うことを確定、近く運営実行委員会を発足、要項を発表する。

同研修会は、ハンドボールの攻防理論、同技術、審判技術など受講者が大学卒業後、ハンドボール指導者として必要な知識を修めるもので、日本協会(普及指導部)と全日本教職員連盟が、数年前から検討を進めていた。

このため、今年度からの実施にあたっては、日本協会と全日本教職員連盟が中心となって運営(実行)委員会編成をして行うことになり日本協会側責任者に4月1日付で新任した宮本普及指導部長を決めた。

全国高専大会

自主開催か

全国高専体育協会々々長・木村作治郎氏(舞鶴工専校長)は、3月22日、日本協会を訪れ、今夏に日本協会が計画している第1回全国

高専ハンドボール大会につき、大要次のような見解を述べた。

木村会長談話 現在、高専の全国的なスポーツ大会は、陸上競技、バレーボールなど7種目による「全国高専総合体育大会」と、サッカー、ラグビーのように、競技団体(日本協会)と全国高専体協が共催しているものとの二つがある。

総合体育大会への参加は、全国63校(注・国立52、公立4、私立7)昭和49年3月1日現在)のすべてで部活動していることが最低条件だ。ハンドボールは、日本ハンドボール協会の調査によると33校に部があるそうだが、総体には加えられない。

サッカー、ラグビーの場合は、参加校(選手、監督)に対し競技団体が旅費、宿泊費の一部を負担してもらおうことを高専体協が要望を受け入れてもらっている。ハンドボールの場合も、是非、この点を考慮して欲しい。このような条件を一切つけずに大会を開くことももちろん可能だが、それはあくまで、競技団体の独自事業であり、高専体協が共催、後援、協賛することは難しい。

◇

△解説▽日本協会では、普及指導部が中心となって2、3年前から「高専対策」を検討していたが、渡辺(平)理事・北信越選出の調査によって、全国で33校が部をもっていることが判った。

同時に多くの学校が、試合相手に恵れぬ点や、全国大会の開催を要望した、などから、今夏、第1回の全国高専大会の開催を前向きに検討、全国高専体協のバックアップを要請中だった。

木村会長の談話は、日本協会側に少なからずショックを与えており、独自事業として踏み切るかどうか早急に結論をまとめることになった。

高専体協側が、主として経済面に条件をつけているのは、木村会長によれば「高専は予算面で余裕がなく、生徒も環境に恵れていない者が多い」との理由からである。

日本協会・荒川理事長は「高専にハンドボールの芽を生やすことは普及策の一つにもかかげられており、今年はムリとしても、来年度以降は、予算化できるものかどうかを検討したい」といっているが、なお曲折が予想される。

また、仮に63校にハンドボール部が揃っても、総合体育大会の規模が広がりすぎるなど、現時点でも高専体協はかなり難題をかかえているといわれ、すんなりとハン

ドボールが実施種目に加えられるとは思えない。

結局、日本協会としては、当分の間、自費(全額)参加できる学校だけを集めて大会を開き、実績を重ねながら、高専体協の共催を

得るよう働きかけることになりそうだ。

なお、今夏、第1回が行われるとすれば、8月、新潟協会の主管によって同県内で開かれる公算が強い。

実業団選抜(女子)韓国へ

全日本実業連は、5月18日から韓国で行われる第4回日韓女子社会人交流に遠征する選手団(役員3選手14)の名簿を、4月5日別掲のように発表した。

代表選手は、有力実業団の中堅クラスを揃え、久保(田村紡)、市川(東京重機)、岩井(大崎電気)、宮崎(ブラザー工業)ら4人の48年度ナショナルプレイヤーが含ま

また、新設チーム・立石電機(熊本)から植原、篠田の両選手が選ばれているが、これは大洋デパート(熊本、廃部)時代の実績を買われたものだ。

日韓女子社会人交流は、日本と韓国で一年おきに開かれ、第3回大会は、今春3月韓国ジュニア選抜が来日して行われたばかり(本誌前号既報)。3回の通算成績は日本側の14戦8勝1分5敗。

今回は5試合の子定だが、来年の第6回世界女子選手権を前に韓国の実力を探る意味で注目される。

注目は5月17日出発、26日帰国(いずれも大阪国際空港)の予定。

訪韓全日本実業団女子選抜軍

監督	永木 隆	161cm
コーチ	富永 義弘	166
GK	鈴木 福徳	165
FP	久保 美徳	163
	西村 彰徳	160
	阿部 照子	155
	蓮井 彩子	160
	鈴木 美保	164
	榎原 美穂	153
	宮崎 千鶴	164
	植原 千亨	160
	篠田 明子	158
	山崎 晴子	156
	川井 悦昌	155
	岩遠 昌子	150

スタジアム・I Fコペンハーゲン
来日選手名簿

▽団長	ヴァン・ヘンリックセン (35才)					
▽監督	フィン・アンデルセン (34才)					
▽チームリーダー	オーレ・クリステンセン (コーチ兼任・45才)					
▽選手		年令	身長	体重	職業	
G K	◎ラッセ・ピーターセン (26)	26	190cm	92kg	造船工	
	フィン・オルセン (23)	23	184	83	医大生	
F P	ペル・プロゴルトン (22)	22	184	84	理工大生	⑤
	◎ヨルゲン・フランドセン (29)	29	185	84	電気技師	⑬
	ライフ・ニールセン (31)	31	185	75	機械工	⑦
	◎トニー・ヨルゲンセン (21)	21	182	83	会計士	⑦
	◎ペント・ヨルゲンセン (29)	29	180	84	金融業	⑥
	フランク・ラルセン (20)	20	183	80	写真現像師	①
	◎レヌ・クリステンセン (22)	22	174	77	電気技師	⑬
	クラウス・アンデルセン (23)	23	184	87	法大生	④
	ボー・G・ピーターセン (22)	22	184	83	税理士	⑩
	ブライアン・ラスミュゼン (28)	28	178	73	教師	⑧
	フレミング・O・ジェンセン (23)	23	182	79	教大生	①
	オットー・ニールセン (22)	22	182	79	機械工	⑦

・右欄○内数字は日本での得点 (全5戦)
 ・◎印はデンマークナショナル (フランドセン, T・ヨルゲンセンは五輪出場)
 ・○印はデンマークナショナルB

巧みな変化攻撃、固い守備

第2戦・二和家具(岐阜)との試合は4月3日午後6時40分から岐阜県民体育館で行われた。審判岡田重博、田島静 観衆約二千二百
 スタジオ 17(9-1-3) 6 二和家具
 後記 二和は、立ちあがりスタジアムの動きの鈍さをつけて2分長谷川(新人、法大出)5分足立がゴール、2-0と先行8分2-2に追いつかれたものの15分伊丹の巧技で再びリード、場内をわかせた。

鮮やかGKピーターセン

二和も、果敢に攻めこんだものの、上背、リーチのある相手のデタミかけ点差を開いた。
 二和は終盤、高木、足立がゴールをあげたにとどまった。(Y)

【二和】 2210010000
 【新谷】 立川木藤川丹上谷藤中
 【足長高斎古伊北水伊田】
 GK 2210010000
 FP 7MT (0) 6
 (2)

後記 改田 智洋

スタジオ 20(12-8-1) 7 愛知教員
 I F (12-8-1) 7

○……あまりにも力の差が違います
 (朝日新聞名古屋運動部)

得点	002212000000	【愛知】	内藤藤浦縄津沼口川井
ス	002212000000	【竹水斎松長深飼川細】	
L	002212000000		
F	002212000000		
B	002212000000		
T	002212000000		
B	002212000000		
G	002212000000		
K	002212000000		

関東一円をネットする…ワイドサービスチェーン

医薬品全般
高級化粧品



健康から未来をひらく

株式会社 日進商会 * 日進チェーン本部 横浜

日本実業団リーグ(男子)、5月25日に開幕

6チーム総当たり、6都市転戦、4週7日間にわたる「ペナント・レース」——初のサーキット化に踏み切った全日本実業団男子選手権が「日本実業団リーグ」と銘打って5月25日(土)いよいよその幕をあける。この試みがもし成功すればヨーロッパなみの「日本選手権リーグ」(仮称)の実現も有望となる。

各地のファンも、是非会場に出向いて大会を盛り立てて欲しい。本誌では、記念すべき初大会のスタート台に立った6チームの抱負、選手名簿、それに見どころなどを特集した。

日本実業団リーグ日程

- 5月25日(土) 本田技研—三菱レイヨ人大竹大崎電気—大同製鋼(愛知県体育館)
 - 5月26日(日) 大同製鋼—本田技研大崎電気—三菱レイヨ人大竹(愛知県体育館)
 - 6月1日(土) 三景—湧永薬品三景—三菱レイヨ人大竹—大同製鋼(大阪中央体育館)
 - 6月8日(土) 三菱レイヨ人大竹—三景大同製鋼—湧永薬品(大阪中央体育館)
 - 6月9日(日) 三景—大同製鋼(岐阜県営体育館) 大崎電気—本田技研(四日市市営体育館) 湧永薬品—三菱レイヨ人大竹(山口県岩国市)
- (注) 次の試合の日程(月日、会場)は4月下旬に決定される。
- 本田技研—湧永薬品
三景—大崎電気
本田技研—三景
湧永薬品—大崎電気

大同製鋼中心の優勝争いか

△みどころ▽選手権のサーキット化——「地方ファンにも好試合を」という日本協会の施策をまづ、全日本実連が手がけることになったといえる。一試合々々、全日本級の選手を中心に、好内容を期待できるし、長期戦の妙味もかむが、焦点はやはり優勝争い。当然のことながら前年度4大タイトル独占の大同製鋼(愛知)が軸。藤中、中井両エースのほか花輪、柳川兄弟が世界選手権へ行っ

てすっかり自信をつけた。それに野田、加藤、松原、篤単には切り崩せない堅城を誇る。

対抗は湧永薬品(大阪)。木野はじめキャリア豊富な巧者揃いだけに、コンディショニングでは随一の力があるともみたい。

穂積、津川の大経大コンビと、今井一人のGK陣に福井が加ったのも大きい。両者は第4日で顔を合わすが、この一戦が最大のヤマではなからうか。

ダークホースは本田技研。大味な試合運びがもろさにつながっていたが、柳の加入で締まり、パランスがとれてきた。

世界選手権個人得点2位・佐藤のプレーは今大会話題の一つ。

大崎電気(埼玉)、三景(東京)も闘志を燃やしている。

短時日の一本勝負では、ベテラン中心だけにスタミナ不足を露すが、長期戦になれば、その巧巧さが武器。特に大同戦、湧永戦はもつれそうな気配である。

大江の引っぱる三菱レ(広島)はメンバーの若さが気になるが、波に乗れば悔れぬ力を示そう。

(次頁の名簿は本誌調べによる非公式なもの)

初サーキット

かくたたかう

△大同製鋼・昨年度優勝▽待望のリーグ戦化実現だが、長期の日程を考えると、スタミナ、ペース造

りが問題となる。精神的にも緊張状態に全員をおくことが不可能なため、どう乗り切るかの調整を考えて戦いたい。

戦力的には、昨年度とほとんど変わらないので、若手がどこまで成長するかを楽しみにしたい。

昨年は、幸運にも、全日本総合をはじめ、すべての全国大会で優勝することができたが、今年は必ずしも勝てるとは限らず、原点に戻って「追われる」のではなく、参加チームを「追う」つもりで無心に戦いたい。

△本田技研 昨年度2位▽これまで弱点とされた守備力を強化するため、今シーズンは1日3時間の練習、ミーティングで、この面を重点的にとりいれ、個人技の向上のために徹底したマンツウマン訓練、チーム技としてはフットワーク、マーク、激しさなどを反復してきた。

また、これまでの大会とちがい一気に波にのるということが難しく、そうなので、各試合にベストをつくせる精神力も養ったつもりだ。

チーム自体はまだ若いだけに、相手とのかけ引きにおくれをとる不安もなくはないが、全員一丸となつての闘志、粘り強さによって、是が非でも、初サーキット化による記念すべきリーグ戦を優勝で飾りたい。

△大崎電気・昨年度3位▽初の3週間に亘る転戦が行われようとしているが、初めての試みでもあり各チームとも、それぞれ意欲を燃やしていることだろう。我々は、各地で待つファンに対し、また、初めてハンドボールを観る人々に対し、ましては、上座ばかりのプレーではなく、中味のあるプレーを展開することにより、好まれるチームを目指し、ややマンネリ化しつつある実業団チームにあってハンドボールの底辺を上げる意味でも、新鮮な気持ちで、基本にかえり、見応えのある試合を……をモットーに臨みたい。

また、初サーキット化を成功させる意味でも、今後のハンドボール界の普及のためにも、最大の闘志をもって臨む所存だ。

△湧永薬品・昨年度4位▽実業団各チームの力が向上し、攻防の激しさも手伝って、疲労による故障者が多数出たこれまでのシステムとちがい、サーキット化は、各チームとも、次の試合までに充分態勢を整えて出場でき、満足のいくゲームができると思う。

昨年は、大同に全タイトルをさらわれたが、今年こそと、その奪回に闘志を燃やしており津川、穂積、福井の新加入によって、チームは大変化、これまでのコンビネーションプレーをさらに前進させスケールの大きいハンドボールの

完成を目標としている。シーズンオフにはサーキットトレーニングで体力養成、特に防禦力をいっそうつけるようつとめた。各ゲームで、最大の力をだせるよう心掛けたい。

△三景・昨年度5位Vうちのチームは不断の練習によって培れた。頭張り」で一戦々々をだいに戦うことをモットーにしているが、今大会は、特に長期戦でもあり、この点をいっそう自覚し臨むつも

りだ。もち論、勝つことが第一の目的であり、今シーズンは新人の力も高く自信のある陣容を布けた。しかし、実業団の試合というものは独自のカラーがあり、新人たちが、いかに早くチームやその展開になじめるかが一つのカギではないかと思う。

これは、お互い手の内を知りつくしている各チームいづれにもおはまることで、新戦力がリーグ優勝の行方を左右する大きな要因になりそうだ。すでに「チーム造り」の段階へ入り、燃えている。△三菱レイオン大竹・昨年度6位V今シーズンは、3名の新人加入があり、また、最近1~2年に入社した若手の進境もあって、昨年と比較すれば、層も厚くなり、総合戦力は向上したと考えている。しかし、他チームも補強されているようにあり、彼等の戦力はむしろ開かれてしまっている可能性もある。厳しいシーズンになりそうだ。それらのチームに対して、勝点をあげることが至難とも思えるのだが、一応、目標を次の2点において臨むつもりでいる。

①最低1勝をあげる②失点をできるだけ少なくする。――サーキット法式移行が、底辺拡大の布石となるためには、よい試合をすることが必要であり、そのためにも二つの目標はぜひ達成したい。

日本実業団リーグ選手名簿

大同製鋼(愛知) 本田技研鈴鹿(三重)

大崎電気(埼玉)

湧永薬品(大阪)

三景(東京)

三菱レイオン大竹(広島)

部長 畔柳 藤男	監督 中浜 大輔	コーチ 野田 清	マネ 更谷 章二	K1 柳川 清 175	F2 倉谷 栄治 172	12 藤田 清 169	3 野中 憲二 173	4 加藤 友弘 183	5 中井 武三 181	6 松原 光三 180	7 花輪 博 178	8 石川 幹夫 173	9 北村 光次 175	10 守谷 宜生 169	11 更谷 章二 176	12 柳川 実 168	13 桐山 保 168	14 中本 満明 184	15 (新加入者なし)
部長 辻本 正義	監督 井上 素行	コーチ 旗野 俊彦	マネ 松井 正敏	K1 岩下 久 176	F2 飯田 誠行 187	3 東 一敏 180	4 佐藤 章治 177	5 荒井 正人 178	6 沢田 富男 177	7 坂口 健二 167	8 前田 正義 183	9 新田 明 173	10 新井 信一 170	11 井手 信一 170	12 小松原 保彦 177	13 橋本 隆三 177	14 江森 正彦 170	15 酒井 義男 170	16 (水俣工高)
部長 儀助	監督 村中 明郎	コーチ 市原 則之	マネ 松井 正敏	K1 今井 敏之 178	F2 福井 秀人 178	3 市原 則之 181	4 木野 実 181	5 菅 広明 170	6 森 嗣雄 170	7 高橋 益夫 165	8 戸田 栄一 170	9 藤井 正敏 168	10 津川 昭 180	11 大山 和男 176	12 田中佑次郎 171	13 穂積 豊彦 180	14 田中佑次郎 171	15 穂積 豊彦 180	16 (大阪経大)
部長 田村信太郎	監督 江名 英彦	コーチ 喜田 健男	マネ 渡辺登美江	K1 西牧 健二 176	F2 小林 利男 171	3 佐々木 健一 171	4 高梨 正博 172	5 内藤 正美 172	6 植田 健一 174	7 上平 義則 173	8 高森 英明 174	9 喜田 健一 172	10 大森 一男 176	11 山村 佳生 176	12 川島 一雄 178	13 保谷 馨 168	14 塩田 正弘 174	15 塩田 正弘 174	16 (中大)
部長 新藤 泰久	監督 木下 弘重	コーチ 順重 順陸	マネ 渡辺登美江	K1 藤本 茂 173	F2 村本 満春 165	3 田中 博 172	4 岡村 春男 167	5 山川 重徳 165	6 岩本 宏道 172	7 中島 隆夫 172	8 池田 正洋 164	9 末広 順彦 179	10 沖重 順陸 172	11 重村 誠 183	12 武田 浩一 180	13 武田 浩一 180	14 武田 浩一 180	15 大林 武則 172	16 (岩国工高)

立石電機さつそく

旧大洋パート勢をそっくり移籍させて発足した女子実業団・立石電機(熊本県山鹿市)が、新シーズン開幕を待ちかねていたようにデビュー、2戦2勝して関係者を喜ばせた。

日本・デンマーク国際親善試合の京都大会(4月7日)、大阪大会(8日)の前座試合に、ブラザー工業(愛知)、田村紡(三重)と対戦したもので、選手にとっては昨秋の千葉国体以来、6ヶ月ぶりの「実戦」だった。

垂水、米、小原の3名手は結婚などで脱けたが、島田を主将に、山下、蔵田の世界選手権代表をはじめ、紀野(大分東高)、根岸(熊本女高)の両新人、大崎電気から転入した和田(世界選手権代表)ら16人は元気がいっぱい。

井監督(元大洋監督)は、「販売から生産の仕事へ急転換、気疲れもありますが、ようやく落ち着きました。まだ、六分のデキなのに勝てたのは幸運」と控え目だが、大洋の誇ったフェア・スピード・ダイナミックの伝統をみごとにうけつぐ試合ぶりだった。

- ▽第1戦(京都府立体育館) 立石電機 14(8-1) ブラザー工業(熊本) 6(1-5) 業(愛知)
- ▽第2戦(大阪市中央体育館) 立石電機 15(7-1) 田村紡(三重) 13(8-7)

合織糸・合織混紡糸



田村紡績株式会社

社長 田 村 正 衛

四日市市東茂福町10-17
TEL 0593-65-2156(代表)
郵便番号 512

☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆
海 外 ト ピ ッ ク ス

杉 山 茂
(NHK運動部)

キエフの5連勝成らず

女子ヨーロッパカップ

各国チャンピオンチームによる第13回女子ヨーロッパカップの決勝戦、スバルタク・キエフ(ソ連)×SSC・ライプチヒ(東ドイツ)の試合は、4月7日オポーレ(ポーランド)で、約四千五百の観衆を集めて行われ、SSC・ライプチヒが劇的な逆転を演じて12-10で勝ちスバルタク・キエフの5連勝を阻んだ。

本誌前号のあと、準決勝でライプチヒはアイントラクト・ミンデン(西ドイツ)を9-8、22-8で、キエフはラドニッキ・ベオグラード(ユーゴ)を14-8、14-12で破り決勝へ進出していたもの試合は、キエフがポブルスの活躍で着実にリード、前半3点差を

つけたが、後半になると、ライプチヒの激しいあたりに動きを封ざられ加点できず、クレツシユマーヘルビクらの追いこみをつけて9-9、そのあとライプチヒはユグハンスの活躍で2点をあげ、8年ぶり(2度目)の優勝を決めた。キエフの5連勝、ソ連代表による第7回以来の連勝記録はいずれもストップした。

SSC・ラ イプチヒ (5-18) 10
スバルタク・キエフ (7-12) 10
フ(ソ連)

一方、第14回男子は、世界選手権終了後、準決勝から再開。2連勝を狙うMAI・モスクワ(ソ連)と王座奪還にもえるVfL・グンメルスバツハ(西ドイツ)が勝ち残り、4月21日ドルトムントのウエストフアーレンホールで対決する。

4月19日現在、一万枚の入場券は売り切れ、準決勝・グンメルスバツハ×CH・ブラチスラバ(チェコ)戦の一万二千五百人を上廻る大観衆が詰めかけそうだ。(II次号詳報)

▽準決勝第1戦

VfL・ 16 (8-16) 15
グンメルスバツハ (8-9) 15
CH・ブラチスラバ (チェコ)
オプサル (7-5) 10
オスロエ (6-15) 10
モスクワ (ソ連)

▽第2戦

VfL・ 15 (8-16) 10
グンメルスバツハ (7-14) 10
CH・ブラチスラバ
MAI・ 22 (11-11) 13
モスクワ (11-6) 13
オスロ
オプサル

ユーゴが優勝飾る

世界選手権後初のビクトリーナメント、東ドイツ女子国際カップは6カ国が参加、4月ベイムで行われ女王・ユーゴが2引分を強いられながら無キズで優勝した。得点王は23点をあげたM・トルティ(ユーゴ)。

東ドイツ 11-8 チェコ
ハンガリー 16-11 ソ連
ユーゴ 18-14 ポーランド
ソ連 22-8 ポーランド
東ドイツ 21-15 ハンガリー
ユーゴ 16-11 チェコ
東ドイツ 13-10 ポーランド
ハンガリー 12-11 チェコ
ユーゴ 9-7 ソ連
ポーランド 16-10 チェコ
ユーゴ 12-12 ハンガリー
ソ連 13-11 東ドイツ
ハンガリー 19-13 ポーランド
ユーゴ 11-11 東ドイツ
ソ連 16-7 チェコ

順位①ユーゴ3勝2分②東ドイツ・ハンガリー3勝1分1敗③ソ連3勝2敗④ポーランド⑤チェコ⑥西ドイツ⑦西ドイツチャンピオンリーグ終盤へオンを決める。ブデス・リガ(全国リーグ)は

いよいよ終盤、今シーズンから南地区は10、北地区は9クラブ参加となり総試合数はあわせて102という長期戦、全日程を終えた北地区はTUS・ウエリンホルンが15勝3敗で1位、グンメルスバツハが2位、GW・ダンケルセンは3位ハンブルグ・SVは9勝9敗で6位。南地区はTV・フッテンバグとFA・ギョッピンゲンが12位、南北1、2位でこれから熱狂の決勝トーナメントだ。なお、2部落ちしていたTHW・キールは北部地方リーグで18戦全勝して優勝。全国リーグへ復活が有望である。

OSCR 昨秋来日した西ドイツ女子、OSCR・ライオンハウゼンがニードルハイン地域リーグで今季も18戦13勝3分2敗の好成績をあげ優勝(2連勝)5月1日から始まる西部クレイコート選手権(屋外7人制)での活躍が期待されている。

ルーマニアが勝つ ケ国が参加して話題を集めたラテンカップトーナメントはこのほどテラモ(イタリア)で行われ、ルーマニアが2軍を送りながら優勝した。2位はフランス、3位スペイン、4位に初めてイタリアが食いこんだ。

注目のカナダは7位、南米からはセ参じたブラジルは6位、アルゼンチンは最下位(9位)だった

オリンピックの技術が生きている。

東京、メキシコ、ミュンヘンと連続3回オリンピック試合球に選ばれたミカサの超高級ナイロン糸巻きの技術の粋がこのボールにもすべてに生かされています。

《科学のボール・完全防水……クラリーノ製(準検定)もあります。》

日本ハンドボール協会検定球



明星ゴム工業株式会社

広島・東京・大阪・福岡・名古屋・札幌

「頂点強化対策」は総点検が必要

～ このままではベスト8は夢だ ～

日本協会で国際渉外を担当する光島磯雄常務理事が頂点強化対策について根本から再検討を要望する一文を寄せた。光島氏はミュンヘンオリンピックにつき今春の世界選手権を観戦、日本の現状を栄養不良症状であると診断した。執行部の一員、いわゆる体制内部から出たこの「反省と将来への提言」につき、読者の意見を待ちたい。

光島 磯雄

(日本協会国際担当常務理事)

第8回男子の世界選手権大会(2月28日～3月10日東ドイツ)を見学し世界の気運に接した感想を記しておきたいと思う。

全日本チームはメンバー決定がおくれたため練習期間が十分になくコンビ不馴れな点もみられたが総体的にはトレーナー、選手ともあたえられた条件のもとで良く戦ったことを最初に記しておく。とりわけ対ソ連戦では大会6試合のうち最も良い内容を示してくれたことも披露しておく。

しかしながら私は全般的に考えて、現在の頂点強化対策の再検討は絶対に必要であるとの感を胸一杯に抱いて帰国した。以下又してもこの感があるが、古くて新しい問題の提起を面をおかしてのべてみることにする。

モントリオール対策の一環としてのスタートで我がチームは第12位の成績に甘んじた結果に終わったが、世界の大勢と照らし合わせた上で今後の見通しは如何?と問われると私としては真に残念ながら10位以内に食い込むという希望的な条件を見出すことはなほは困難であるとしか申し上げられない。その理由をあげてみる。

(1) 国際試合経験の不足

ミュンヘンオリンピックの経験者3名にしてもその公式国際試合出場歴は木野50回、中井28回、本田41回でこの程度では欧州では珍

らしいものでなく、この3名にしても手入れを欠かせば錆びてくるのは当然であり、ましてやこの3名以外の新参加者がいかに当惑するかは一目瞭然ということになる。いかに体格、技術、体力にすぐれた人材を選抜し、すぐれたコーチがついて合宿練習をしたとしても、海外遠征による国際経験すなわち武者修業を積みぬ限り全く問題にならないことを再確認した。アメリカやアフリカに勝てる

うちは12位は保証されるであろうがそれも時間の問題である。ちなみに国内行事の国際試合も含めて48年度の全日本チームの国際試合数は3月9日現在で12回である(対ユーゴ4、対イスラエル2、世界選手権6)。今回の大会でも、ある時は超一流のプレーを示し満場の大喝采を浴びるかと思うと、他の時には日本国内では絶対にならぬような凡ミスをおかし失笑を買ふという現象はミュンヘン時にもみられたことであるが、この凡ミス及び失点を少なくするという基本的な問題を解決出来ない状態での(新人が海外での雰囲気は特別なものという重圧感を抱くうち

は)大会派遣は選手にとって気の毒である。このことは従来のように、大会開幕前に数回外国チームと対戦することによって慣熟し解決出来る性質のものではないのである。

とにかく現在までのように年間5回に満たぬ国際試合経験数では今後飛躍的に向上をのぞむことは絶対に不可能であり、万年12位に留らざるを得ないであろう。8位への壁は非常に高くけわしいが、これが克服打開には一にも二にも国際試合経験数の増加(年間最低40試合!!)以外に途はないと断言する。一方幸にして日本ハンドボールのゲーム態度は他国にくらべて真にフェアで好評を得ていることも事実であるが「強さ」「たくましさ」「粘り強さ」「かけ引き」においては国際ハンドボール界では「高校の部」に相当する。もっと皮肉に言えば、模範生徒であるが惜しむらくはハンドボール的に慢性栄養不良症状を呈しているのだ。それにもかかわらず選手達は限られた条件のもとで真に良かったたかっている。しかし国際試合雰囲気での慣熟不足のため失点し、凡ミスを生じ、もう一步というところで試合を失なうという状態に関しては、明らかに日本協会が責任を感じなければならぬと思うのである。

(2) チーム人員12名は当を得たものでない

これは次に記す財政と関連することであるが、12名しか派遣出来ない事情はあるにしても明らかに頂点強化に矛盾する問題として考えざるを得ない。わかり切ったこ

日本ハンドボール協会公認球

シムレスハンドボール

- パスワークのさえ
- オーソドックスなデザイン
- ハンドリングのよさ

TACHIKARA タチカラ株式会社



となら12名の枠の欠陥を列記してみよう。

(イ) 負傷者、疾病者の発生は確実であり、その補充の幅がせまくもし中軸的選手に故障が生じたらもうそれまでである。

(ロ) 7対7の攻防戦練習が出来ないという技術的難点。

(ハ) チーム力というものは人数カケル経験数によっても表現されるゆえ、12名の場合第8番目以下を起用した場合たちまちに支障を来たすことになる。長期的な視野でのメンバー改訂も考えられない。常にゼロから出発するような不安感がつきまとうのである。

(ニ) 指導スタッフが思い切った戦法をとれない。不安感が去らな

い。少なくとも指導スタッフが余裕ある精神状態を保てるよう対の攻防戦練習が可能な人数は確保してやるべきである。医師、マッサージ、通訳、記録採集要員など欲を言えばキリがないが、せめて試合に直接関係する「戦える人数」だけは外国と対等にすべきである。

(3) 財政的問題点

国庫（日体協）の補助金なども

先細りの状態にあり、今後ミュンヘン以前の程度の強化策さえも思うにまかせぬという先行きになるとなればどのような対処すれば良いのか？ 今後数年間の行事予定

をみても重要行事が目白押しに続いており、それに要する費用の調達も至難事であり、頂点強化のためどれかの部門をしわよせしても良いという状態でもないことは周知の事柄である。他の種目団体はどのようにやっているのか？アマチュアリズムを高くかかげるのは結構だが、ニッチもサッチも行かなくなるようなアマチュアリズムでは困る事態が来ると思う。

頂点強化の意義目的の認識を新たに、この際根本的な改善を考えなければ、再三言うごとく万年12位であり、参加することのみ意義を感じておれば良いのである。

次に強化対策改善の部分的案として思うことをあげてみる。

(イ) 有力な選手は有力な実業団に吸収してもらおうようにする。大げさな表現であるが、全世界は日本のスポーツの中核は実業団であることを知りぬいているのである。

(ロ) 過去のスタッフの頭脳、経験実力、功績を再評価し、強化に最大限に活用するための処遇法を研究する。（村田、竹野、宇津野、大西、近森氏ら）

(ハ) 学生を全日本チームとして選ぶ場合は、少なくとも卒業後数年間は実業団に入って努力精進を続ける決心と覚悟のある人物でなければ無意味である。折角

派遣してもハンドボールに関係のない進路を進まれては元も子もないのである。

(ニ) 全日本チームの選衡基準をより一層具体的なものにして人材発掘に便利ようにする。

(ロ) 海外遠征は協会直轄のみでなく、実業団主体性で「下請け」してもらおうようにする。いわば費用負担の肩替りの意味もあるが、経験増加に努力してもらおうと考えれば背に腹はかえられないのである。

(ハ) 有力有能な選手をハンドボール留学させる窓口を持つこと。近森氏の例もあり、西独ならば可能である。

(ニ) IHF理事渡辺和美氏の活動をより一層高く評価し今後相互に意志の流通を円滑化すること。現在の日本協会において渡辺氏の他に誰がIHFに地歩を占めることが出来るかを考えれば、有能なるハインツ・ブラッシュ氏（渡辺氏の駐欧秘書）の存在とあわせて日本の利益につながるよう最大限に活用し相談すべきである。

今回の危機（注・アジア予選への参加問題）の收拾にも渡辺氏は重要な役割を果たされたことを認めなければならぬ。

(4) 審判について
今回のレフェリーは12ヶ国の26人が選任されチェルニア組が初め

てヨーロッパ以外の地域から選ばれて担当した。しかし、本当によく動き、明確に吹笛し正しい判断を示していたのは、スウェーデン、西独(BRD)、DDR(東独)の3ペアで、あとの連中はあまりとるところなし。7米投のとり方（エリア付近でのとび込みに対応する動作としての防禦）には理解に苦しむ場面がみられた。今後国際レベルでの吹笛に資質（会話、専門用語、交際）を有するレフリーの育成と海外派遣については、前記の選手に対する対策同様に審判部の頂点強化推進として前進を開始してもらいたいものである。

以上長々と書いたがこれらの問題の中には想像以上の困難、障害がともなうものが多々ある。又はそれほどまでしなくとも考えられる向きもあろうかと思う。しかし日本ハンドボールの直面する壁をいかにして乗り越えるかについて、もう一度頂点強化対策を洗いなおしてみる意味であえて問題を提起した次第である。

小さな支流があつまって山をくんだり、谷をめぐり、野をはしり、洋々たる大河となって海へそそぐように、我がハンドボールも小異をすて大同団結の実をあげ、我々の子孫のために大きな夢を持つてはならないか。

日本ハンドボール協会公認球

一番広く使われて居る!
セブ



サービス部
新宿区新宿2丁目電停前
TEL (34)2979・1016

望月運動用品KK

東京都墨田区横川橋4丁目6
TEL 本所 (622) 0746



木野実選手

公式国際試合に50回出場

日本選手では初めて

日本協会は、日本選手として初めて公式国際試合出場50回を記録した木野実選手（F.P.、27才、湧永薬品、寝屋川高一立教大出）を4月7日京都府立体育館で行われた全日本×スタジオン・I.F.（デンマーク）戦の開会式で表彰、田村正衛会長から記念のトロフィーを贈った。【カットは今春3月、世界選手権出場の際、東ドイツ紙「スポーツ・エコー」に掲載された木野選手の似顔（アラアゼウスキー氏画）

☆木野実選手おめでとう

☆日本協会の男子7人制公式国際試合総数は64。木野はその8割近くに名を連ねている勘定だ。近年の全日本の歴史は、彼なくしては語れないことになる。

オリンピック採用で急増した公式戦、その時に現役であった幸運。そういえば、彼には運がある。勝運がある。スターとは、そういうものなのかもしれない。

☆プレーもそうだが、ユニホームを脱いでも、彼は冷静で的確な判断力を示す男だ。

「50試合の表彰、嬉しいですよ。でも、僕がやっと到達したんではダメ、いちばん若い選手にこのくらいのカリヤが欲しいです。欧州では70試合をこして一人前、100

試合がザラです。ベスト8への壁こんな処にも感じるなア」

☆公式国際試合という耳なれない言葉が聞かれるようになったのは4年ほど前からだ。

ヨーロッパの新聞社からの問合せに、編集部が慌てて資料をと

のえた。それまで、日本協会はこういうことに無頓着。

チームスポーツに個人単位の表彰は無用という考えが、長くはびこりすぎていたのである。

☆3年前のスイエデン戦あたりから、全日本の各選手にファンがつきはじめた。

木野評はクールな男、であったプレーがスマート、あの脚がいいといった女性ファンもいる。

選手間の信望も厚い。7日、日本協会とは別の、表彰式があつ

た。チームメートがおこずかいを出しあつて記念品を贈ったのである。

☆「50試合のうち、最初に出た選手権（昭42）、44年のタシマイダンカップでユーゴに勝った時、46年のオリンピック予選の三つは印象深い」

オリンピック予選の時は重責に押しつぶされそうになり、苦しみぬいた。彼のナバスの一面を物語っている。

☆キノの名は国際的にも高い。特にそのインサイドワークは、切れ味の鋭いフットワークとともに定評がある。

「まったく彼は考えたプレーをする」と最近来日したヨーロッパの名手・フランドセン（デンマーク）

ク、スタジオンI.F.）も驚嘆したし、昨秋のスノイ・ユーゴ監督も同じことを云っていたものだ。

☆最近、不満があるという。主に報道関係者が、彼への枕詞として「ベテラン」といったり「老巧」といったりすることだ。一日でも長く全日本に居るため限界に挑みこれまでに以上の節制をつづけている時に、ハタで老けこまされてはかなわないと若い顔をふくらませた。「ベテラン」を「熟練者」と訳せば君にピッタリじゃないか――。

☆公式国際試合における初得点は中国戦の前半3分30秒の7MT。当時立教大学3年生。以来7年半177ゴール。

家庭には好子夫人と長女・陽子ちゃん。

木野選手50試合のあと

試合日	対戦国	得点
① 41. 10. 3	中	6
② 42. 1. 3	ル	1
③ 42. 1. 8	フィン	8
④ 42. 1. 12*	ハン	6
⑤ 42. 1. 13*	西	8
⑥ 42. 1. 15*	ル	6
⑦ 42. 1. 25	ル	9
⑧ 44. 6. 20	ハン	5
⑨ 44. 6. 21	ハン	7
⑩ 44. 6. 27	ハン	4
⑪ 44. 6. 28	ユ	1
⑫ 44. 6. 29	ハン	4
⑬ 44. 7. 2	ハン	1
⑭ 44. 7. 9	西	4
⑮ 45. 2. 26*	チェ	5
⑯ 45. 2. 28*	ユ	2
⑰ 45. 3. 1*	ア	4
⑱ 45. 3. 3*	ア	2
⑲ 45. 3. 4*	ア	6
⑳ 45. 3. 10*	フ	4
㉑ 45. 3. 10	オ	2
㉒ 45. 3. 12	オ	4
㉓ 45. 3. 14	オ	5
㉔ 45. 3. 16	イ	3
㉕ 45. 3. 18	イ	3
㉖ 46. 9. 4	ス	6
㉗ 46. 9. 5	ス	4
㉘ 46. 9. 11	ス	2
㉙ 46. 9. 18	ス	4
㉚ 46. 11. 14	ス	1
㉛ 46. 11. 20	ス	2
㉜ 46. 11. 23	韓	4
㉝ 46. 11. 28	韓	3
㉞ 47. 8. 26	ア	6
㉟ 47. 8. 30	ユ	3
㊱ 47. 9. 1	○	3
㊲ 47. 9. 3	○	3
㊳ 47. 9. 7	○	2
㊴ 47. 9. 9	○	1
㊵ 47. 9. 9	○	3
㊶ 48. 9. 1	ユ	3
㊷ 48. 9. 9	ユ	1
㊸ 49. 2. 14	イ	0
㊹ 49. 2. 17	イ	7
㊺ 49. 2. 21	ユ	3
㊻ 49. 2. 24	ユ	3
㊼ 49. 2. 28*	東	2
㊽ 49. 3. 1*	ソ	0
㊾ 49. 3. 5*	ソ	3
㊿ 49. 3. 7*	西	0
昭49. 3. 9*	ス	4

・*印は世界選手権
・○印はオリンピック



光島磯雄誌上展

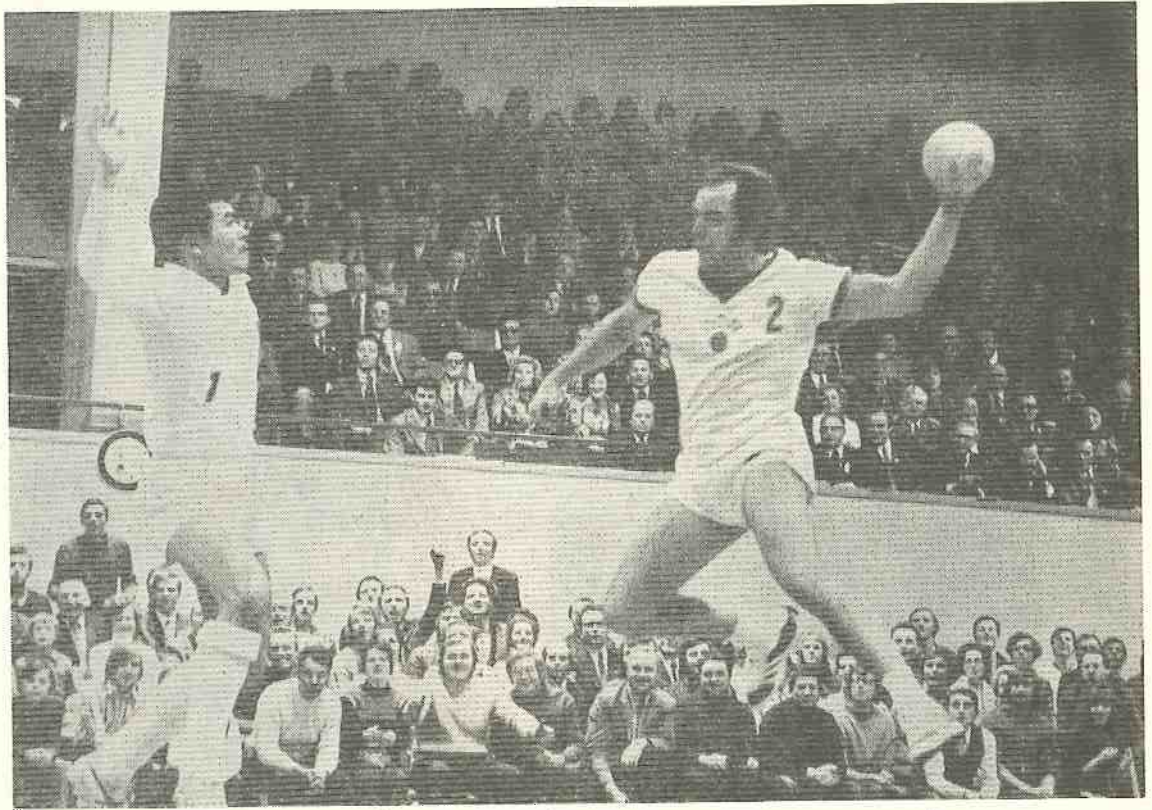
第8回世界男子選手権作品集

↑ 迫力満点・藤中の豪快なジャンプショット（ブルガリア戦）
 ← 木野の技巧的なプレーは相変はず光（東ドイツ戦）



↑ ゴール前一瞬の攻防⑨は柳川弟，GKはドッグス（西ドイツ戦）

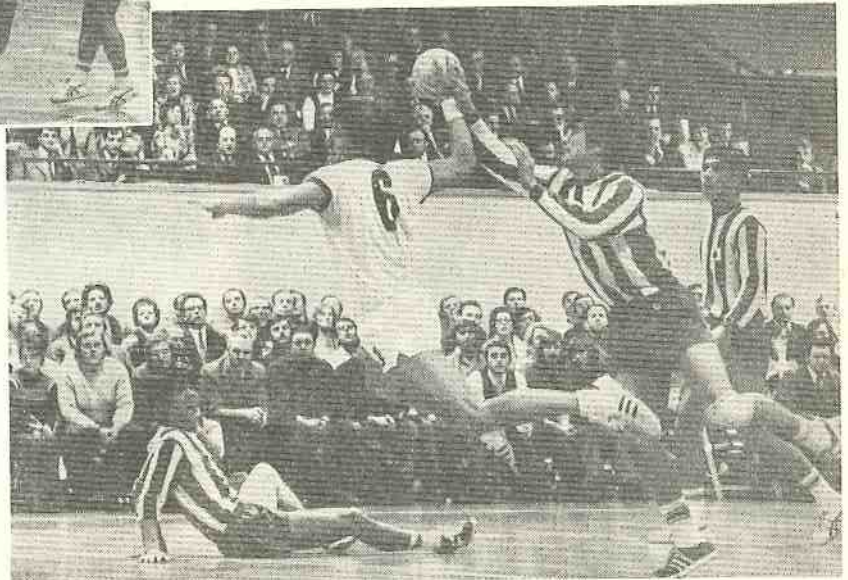
← この大会で佐藤（得人得点2位）の活躍はみごとなものがあった（ブルガリア戦）



↑現代最高のアタッカーと云われる左腕ガンシヨフ（東ドイツ）の攻撃に一步も引かぬ本田の斗志



↓最近のヨーロッパ勢は長身のロングシューターばかりではなく、突進力のある選手が守備網に強引に攻めこんでくる戦法が目立つ。⑥ラケンマッハ（東ドイツ戦）



↑日本の課題はディフェンス、体力のある相手にのしかかられて射たれるケースが多い。⑩はマシヨリン（対ソビエト戦）



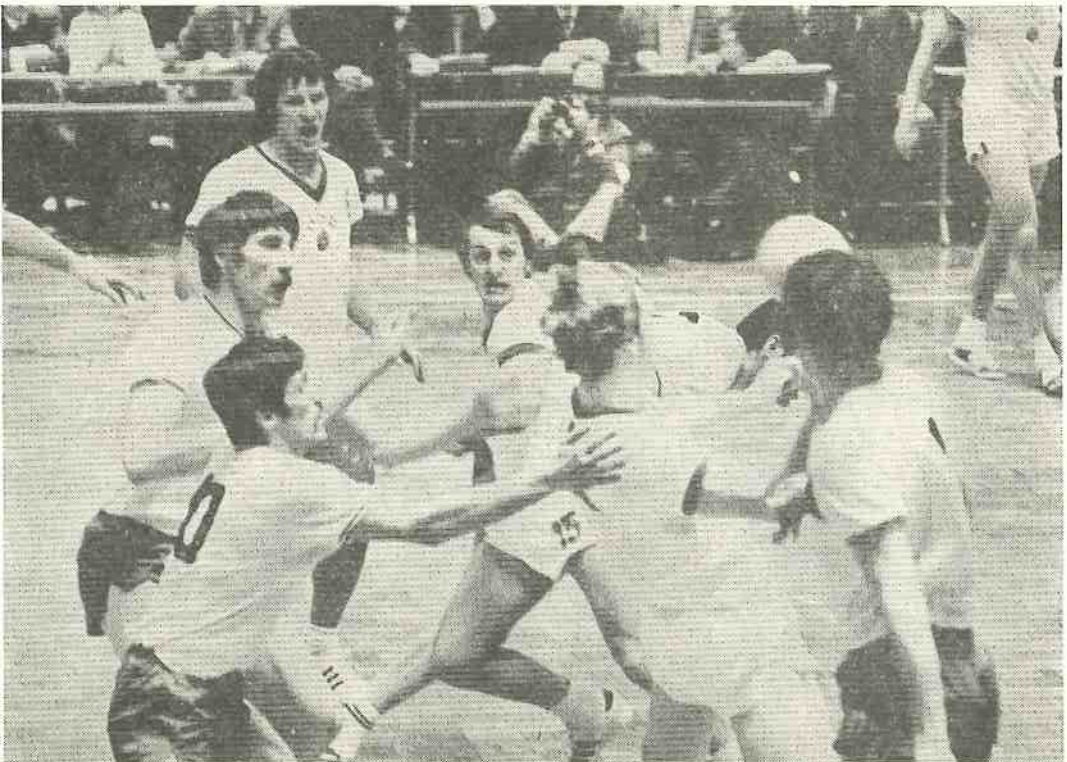
←5位をかけたチェコ対ソビエト戦。前半ソビエトの攻撃に、チェコのディフェンスはかきまわされてしまった。



↑決勝の後半、ルーマニアは⑩コスマが貴重な勝ちこし点をあげた（GKは東ドイツのヴェイス）

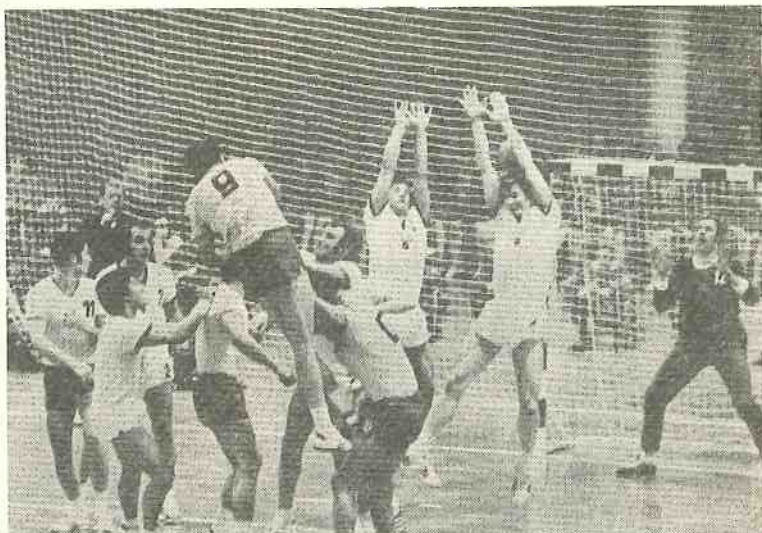


→決勝戦、ルーマニアの守備陣は東ドイツ、ガシヨフ②を巧みに封じ1点におさえた。これは勝因の一つである。



→決勝戦・ルーマニア×東ドイツ。ゴール前のせりあい。すべての選手の表情に優勝への執念をよみとることができる。

→ 決勝戦。佐藤と得点王を争ったルーマニアのエース
⑨ ヒルトランの攻撃



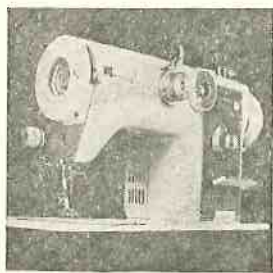
↑ ルーマニアの至宝GKペヌの軽快なキーピング

↓ 東ドイツディフェンスは、ルーマニアのゲームメーカー
ガツ（右端）を徹底的にマークする策戦をとったのだがー



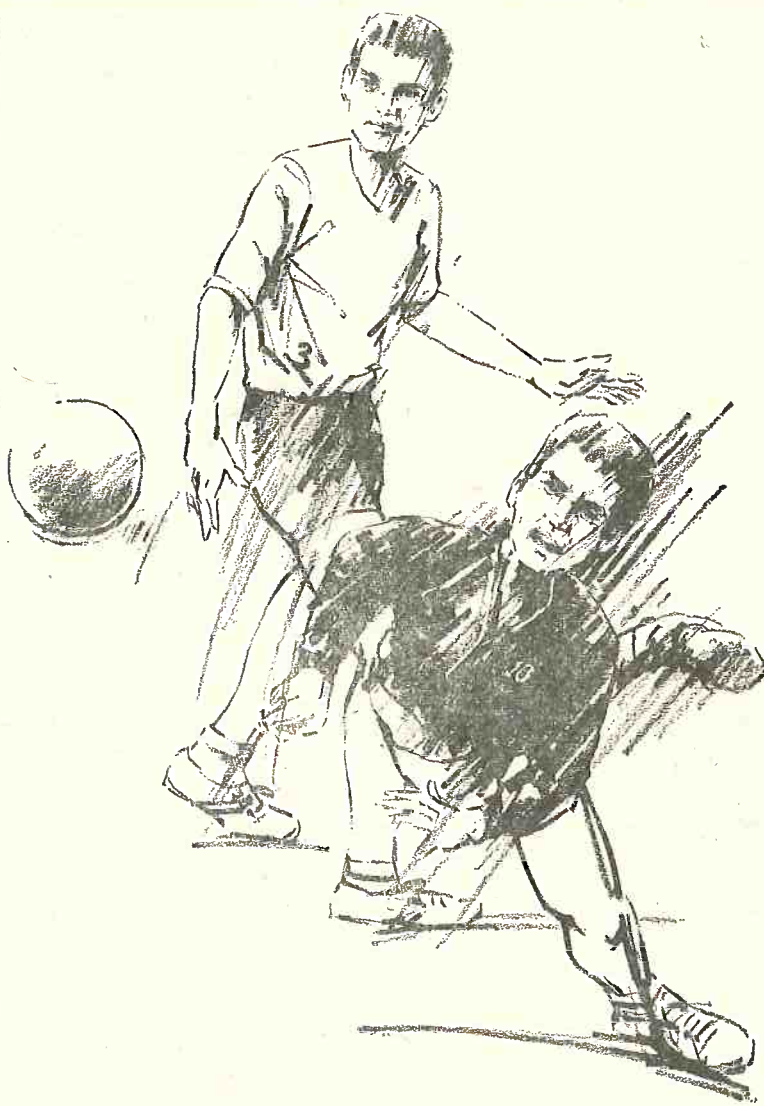
↓ 2連勝を決めたルーマニアは優勝トロフィーをかかげて歓喜の場内一周





鍛えぬかれたフォームにこそ、 メカの真髄がある

■ジューキシンは精密工学の結晶とうたわれる高級品。シャープなスタイリングで、その名を高めています。



ジューキ

 東京重機工業株式会社

世界選手権リポート

ゲームスタミナに課題残す

予選リーグ・対東ドイツ

柳川 清

世界選手権の第一戦は、優勝候補一番手の東ドイツであった。前回は、惜しくも決勝戦でルーマニアに延長戦の末、一点差で敗れている。その為か今回の東ドイツは試合前の練習でも気合十分で、日本を圧倒しそうな意気込みである。東ドイツは、二人の左腕が攻撃の中心で特にガンシヨフはポストプレー、ロングシュートと多様な攻撃を誇る最高のアタッカー。前半20分まで7対5で東ドイツが一步リード、20分すぎに日本は7対7と同点とし逆転のチャンスもあったが、速攻からのノーマークシュートを失敗し逸した。一方、東ドイツは、日本のミスを利用してチャンスに結び付けて、あつという間に我々は13対9と点差を付けられてしまった。逆転のチャンスにおかしたシュートミスが悔まれる結果になった。後半に入ると東ドイツは、ガンシヨフの打つロングシュートが悉く決まり、日本のディフェンスは呆気に取られるばかりだった。キーパーの顔の横や身体の側を貫くシュートは物凄いスピードがあり、キーパーが手も出ないような感じである。このガンシヨフをマークしているとポストシューターの素早い動き、ピポットプレーなどで日本のディフェンスは攪乱され、ゆさぶられてしまった。日本は後半、スタミナ不足でボールの回りが遅く、個人技で勝負したような結果になった。日本は前半にスタミナを使い果たした感じで、一試合フルにスタミナが持つような体力をつけることと、ディフェンスにおいて体力的に劣っているので素早い動きでカバーするようにしなければならぬと痛感した。特に日本が世界の上位に入るには、これまで何回となく言われて来たことだが、ディフェンスの強化を行うことが先決だ。スタミナについては、欧州ではオフフェンスとディフェンスとで選手を使いわけ、選手交替を頻繁に行なう、この面をカバーしており、そういう作戦もこの課題を解決する一手段ではないかと思う。日本は一試合を通して、同じ選手がオフフェンス、ディフェンス

全日本遠征成績

▽第8回世界選手権(東ドイツ)

・予選リーグC組

東ドイツ	31	(13-9)	16	日	本
ソビエト	25	(13-7)	18	日	本
日本	29	(12-11)	18	アメリカ	
		(13-9)			
		(16-9)			

・9~12位決定戦

ブルガリア	23	(13-12)	22	日	本
西ドイツ	30	(10-10)	24	日	本
スウェーデン	28	(15-12)	21	日	本
		(15-12)			
		(14-11)			
		(14-10)			

日本=12位

▽第8回世界選手権アジア予選(イスラエル)

①日	本	14	(6-6)	14	イスラエル
			(8-8)		
②日	本	18	(10-7)	14	イスラエル
			(8-7)		

▽親善試合(※印は公式国際試合)

※ユ	ー	ゴ	36	(15-8)	24	日	本
				(21-16)			
※ユ	ー	ゴ	27	(12-10)	17	日	本
				(15-7)			
			15	(8-9)	15	ベルリン	
				(7-6)		SV92	

通算11戦2勝2分7敗

を行なっているため、ディフェンスで力を使い果して、オフフェンスになると力が出ずミスが多くなり点に結び付かなくなっているのだ。日本は攻撃力においては、世界のどのチームに対しても通用することを実証した。これは殆んどの試合で二十点以上取っていることでも判る。日本人の特徴を活かした素早い動き、速い攻めなどが今回も有効であった。ディフェンスをより強化すること、欧州との交流をさかんにし、数多くの国際試合を経験して少しずつ上位諸国との差を縮めることが、結局は世界の壁を破る一番近道ではないかと思う。(FP、大同製鋼)

スポーツ王国・東ドイツ

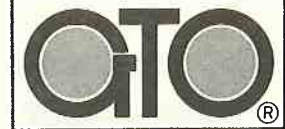
東ドイツは今や世界最高のスポーツ王国と云える。「1日1回はスポーツを」というスローガンが徹底し、スポーツ奨励を憲法でうたっているのだ。公営の体育施設は市内のもっとも便利な場所であり、クラブ組織もしっかりしている。

世界選手権は国内11市町村に散って行われたが、どこ会場も、夏目選手が報告(27頁)しているように、けっして大きいものではなく、収容力は予選A組と準決勝2組の主会場となったカールマックスタットの四千七百が最高、首都東ベルリンも通常は三千七百人が限度ということで、使い易さが主眼がおかれているのはさすがであった。

ハンドボールネット

アスレティックウエア

GOOD TASTE & ORIGINALITY



株式会社

ジティオ

本社・大阪府吹田市豊津町2番3号 〒564
TEL. (06) 385-1111(六代)
東京・札幌・仙台・名古屋・福岡

日本、シュート最多記録

西ドイツの「週刊ハンドボール」誌によると、今回もつとシュート(6試合通算)を射った国は日本で20本、シュート成功率は47%。最少はルーマニアの20本、シュート成功率は52%。シュート成功率の最高はソビエトの59%。なお失点のもつとも多かったのも日本(165点)で、ルーマニア(81点)と74点も差がある。

「フェアプレー」は東ドイツ

最下位にルーマニア
大会終了後、組織委員会はフェアプレーカップの受賞国として東ドイツを決めた。

同賞は6試合を行った12ヶ国を対象に反則退場1分につき減点1警告1回が減点1、課せられた7MT1回で減点2とし、減点合計数をもつとも少い国を選び出した。東ドイツは減点54(反則退

場12分、警告8回、7MT17本)

日本は減点80(反則退場14分、警告6回、7MT30本)で5位、12位はなんと優勝したルーマニアで減点115(反則退場52分、警告11回7MT26本)。

7MTをもつとも課せられたのは西ドイツで41本。

190cm以上が54選手

各国の大型化はいぜん天井知らずの感じ。190cm以上の選手は4年

二月八日、午前五時十分にてテラピブに到着。一日がかりでやつとアジア予選開催地のイスラエルに着いた。飛行場では、日本選手団を待ちかねていたのか、テレビ局や報道人等の姿が見え、インタビューを受けた。私は以前イスラエルを訪れた事があるが、今回のように空港で報道人の出迎えを受けるのは初めてである。今度のアジア予選にイスラエル側がかなりの力を入れている事を感じるに充分だった。ホテルは前回と同じく「ラマタビブホテル」。周囲が緑に包まれ、パンガロウ風の建物で非常に気持がよかった。我々は試合を六日後に控えて、早速タクシーで二十分くらいかかる練習会場へと向かった。運転手の話によると、我々の事をよく知っており、一度は日本チームが来ないと言った事に対して、イ

不安なかつたアジア予選

藤中 憲二

スラエル国民に大きなショックを与えた様だが、到着した現在ある種の安心感を抱かせたと思われた。なぜならば、イスラエルは今、戦争中でありこうした時に国際親善が行なわれる事は国民にとってなごやかなるおいをもたらす事だからである。試合町の中を歩いていると、「シヤ

ロン」と笑顔で挨拶をしてくれた遠くにて声の聞こえない時

えない程で、フォーメーションを声に出してやっていたが徹底せず失敗した事もあった。例えば、私が七メートルスローをうった時、笛が聞こえず審判が私に早くシュートしろと手招きした程であった。八千人の人々全員による歓声がどれ程か書くすべもない。

私達はイスラエル国民に歓迎され、いたる所で「シヤロン」と挨拶され、現在戦争中とはとても信じられなかった。何一つとして、不安や不満はなかった。今後、もう一度イスラエルに行く機会があれば、「シヤロン」と言って、挨拶を交したい。(主将・FP、大同製鋼)

前の第7回大会では43人だったが今回は54人に増え、このうち195cm以上が13人もいる。最高は、カーレルト(東ドイツ23才)の2m。一方、小がらな選手は日本というのが通り相場だったが、今回はアラドスチョフ(ブルガリア、21才)の169cmが記録、ちなみに彼は31ゴールをあげて個人得点3位に入る頑張りを見せた。

ミカドハンドボール



日本ハンドボール協会公認球



三カド商会

東京・豊島・巢鴨・7丁目1696
TEL (941) 2 6 3 5 ・ 6 5 9 2

世界選手権リポート

余裕をもつての快勝

予選リーグ、対アメリカ

佐藤 要二

東ドイツとソビエトとの2試合を終り、日本の目標であった、ベスト8・準決勝リーグ進出を達成出来ず、次の段階ともいえる9位から12位決定戦への出場をかけてアメリカと対戦したのは3月3日だった。

外国チームは、日本に対しては日本をはるかにしのぐ身長差、体重差を活かしてパワーハンドボールに徹するのが最善と心得ているように外人特有のロングシュート1人2人を引きつけての高いジャンパス、ディフェンスにかまれているのにひきずり込む様なポストシュート、サイドギリギリからのシュートで攻めこんできた。

こうした攻撃を防ぎ切るにははげしいディフェンスしかない。速い動きをつづければアメリカ戦には絶対勝てる、高いシューターに對しての、早い詰め、一試合を通じての声の連絡、早い戻りを励行することを申し合せて試合に臨んだ。

アメリカは、バスケットボールの選手を補強、黒人選手も加えヨ

場者などもあり、ペース配分もうまく取れ、確実に点差を開く事が出来た。

これで、日本は9〜12位決定戦へ居残れたわけだが、予選リーグを終って感じるのは、日本が検舞台で健斗するためにディフェンのコンビネーションを強固なものに

若さのぞきペース誤まる

9〜12位戦、対ブルガリア

中井 武三

日本は、開始早々3点を連取するなどして緊張がほぐれ、巧くすべりさせた。

余裕をもった我々は、その後も速攻、ロング、サイド、そして初めて高い相手守備陣のカベを破ったのポストへのパスなど、多彩の攻撃展開が出来たが、ディフェンスでは、体の大きいアメリカ選手、パスプレーに身体がついていかず、長い間、ボールを持たれると、わかっているはずのポストへのパスや単独で強引に割り込んでくるシュートなどで得点を許すケースが多かった。

後半に入っても日本の攻撃はスピードが落ちず速攻、ポスト、ロングなどで加点し、アメリカの退

すること、どのようなボジションからでも攻撃展開ができる力を養うことが絶対条件である。

そのためには、短期間の合宿ではムリだ。チームメートの気心がわかるだけでも、かなりの日数が必要であり、この点を充分に考慮し、数多くの練習、合宿を経て最高のムードで大会を迎えることができるようにされなければいけないだろう（F.P. 本田技研鈴鹿）

またしてもベストエイトの壁は厚く、我々ナショナルチームの前に立ちふさがれてしまい九位〜二位決定戦にまわってしまった。

第一戦はブルガリア。しかし、ブルガリアについての資料、情報が乏しく、いままさらながら日本のおかれている立場、島国の悲しさを味わった。わずかに、サイドシューターに左利きのすばらしい選手がいる、ポストプレーが多い、ということぐらいしか情報が入ってこなかった。そこへいくとブルガリアには日本の適確な情報が流れていて、それなりの対策を企てて試合に望んできた。

ブルガリアの攻撃は、今まで予選で戦ってきたチームと異なり、

ってきた我々は、体格が日本人とあまり変わらないブルガリアの線防禦は射ちやすいと感じ、予選のすばやい動き、連系プレーからのシュートをわすれ、単発シュートを射ってしまった。

そのため自らのペースを乱し、速攻をかけても凡ミスがでて、バックの連けいも悪くその結果、後半なかばでの三点差を守りきれずに、最後の土壇場、三〇秒前に逆転されるという最悪の事態で終わってしまった。

ロングシュート及びローリングオフェンスがなく、個人プレーが多い。攻撃パターンは、フェイントからのポストマンへのパスとサイドシュートへのパスそして、強引な割込みだ。ポストシュートは他チームにくらべてあまりうまくは

なく、なんとか守ることができたが、サイドシューター（左利き）に八点を奪われ、また強引な割込みをゆるしてしまい無理な守りから7MTをとられてしまったのは失敗だった。

ディフェンスは、日本の動きについていけないように一線防禦を布き、ロングを射たせて取るという作戦をみせた。

予選で強チームの一線防禦と戦

敗因はいろいろあったがまだチーム結成以来一〇試合たらずしかやっていないため、試合経験の浅さからくる勝負どころでの見極めができず、むやみやたらに攻撃をしかけ、相手のリズムに合わせた試合を行なったために最後のつめが甘く、たくみにつけこまれてしまったことが大きい。

今回も全国の皆さんのご期待にそうすることができなかったが、若い全日本にとっては、異国での試合がいかにむずかしいか、又、ブルガリア戦での教訓等、身をもって体験できたことは、かならずやこれからの試合に役立つものと思う。又、ヨーロッパ強国と対等に戦えるということを、チーム全員が感じたことは、大収穫であったと思っている（F.P. 大同製鋼）

印象的な長身のテクニシャン

9~12位戦、対西ドイツ

蒲生 晴明

三月七日、薄曇りのマグデブルグ体育館で西ドイツと対戦。前日、シュベリンからパスでえんえん四時間かかってやっと当地に到着しました。

マグデブルグ半球で有名な場所です。一昨日は、ブルガリアに一点差で敗れ非常に残念でした。今日はそのうっぶんを吹き飛ばそうと全員はりきって試合に臨みましたが、結果は6点差で敗れ念願の9位入賞をあきらめねばなりません。

西ドイツは、日本と同様ベテラン選手が退き若手の多い陣容でした。しかし、日本でおなじみのシュミット、カーター(グンメルスバッハ)らは健在で、相変わらず好プレーを見せていました。

この試合は、日本チームの課題であるディフェンスの勝負でした。今までの試合でもディフェンスさえ良ければ勝利を握れた試合はあったと思えるのですがもう一つ粘り切れずに敗れてきました。前半から、両チームとも点数の入れ合い、一点を争う間に、西ドイツが

長身者のロング、ポスト、サイドと決め、前半3点差、後半日本はポストディフェンスを目的にプレッシャーしたが、今度は上からふられ、強引にシュートされるケースが多く、またしてもディフェンスの弱さを身にしみて感じさせられた一戦でした。

日本は24点を取りながらディフ

崩されたディフェンス

9~12位戦、対スウェーデン

柳川 実

世界選手権の最終戦。朝七時に起きて、練習着に着がえ、荷物もまとめた。朝が早かったため、食欲があまりなかった。今日の試合は、初めて午前中である。

試合場に向かうパスの中では、ほとんど寝ていた。およそ1時間ほどでデソーに到着、試合会場は町工場みたいな所の体育館であった。体育館にはいると、早朝にもかかわらず観衆が詰めかけていた。コートサイドで、コーラや、お菓子を売っている。日本では考えられないことだ。体育館はそんなに大きくなく、日本の高等学校

ユエンスの面でのマイナスが非常に大きく尾を引き勝利にはつながらませんでした。

攻撃面では日本はサイド、ポストは少なかつたがミドルが多く決まり攻撃のリズムは良かったように思えます。西ドイツはシュミットを中心に、190cmを越す者がよいタイミングでロング打っていたと思います。特にグンメルスバッハの新鋭・デツカルムは、欧州のハンドボール選手では珍しく、やせ型で、体重は84kg(193cm)。しかし体の使い方が非常にうまく、シュ

にあるくらいに大ききであった。我々はミーティングルームで個々にトレーニングのあと、北川監督より今日の試合はオフフェンスは、ダブルポストを探り、一・五ディフェンスで守るように伝えられた。試合は、日本のスローオフで始まった。

ダブルポストでボールを廻すがスウェーデンは、サイドに対し、マンツーマンをとってきたためボールが大きく回らず、足もあまり動かさず単発にシュートを打つことが多かった。スウェーデンはスピードはそんなにないのだが、日本

ートを打つ時の空中バランスが『むち』の様にしなり、タイミングは一歩遅れるが、最後の瞬間にシュップがききスピードのあるシュートを打っていました。けっして力まかせにシュートしている感じではなく、リズムカルにボールを取り、ステップジャンプまでが非常に速かつたのが印象的で、ヨーロッパにはこうした「長身のテクニシャン」がいることを知らされました。(FP、中大)

のディフェンスは、ついていくのが精一杯で、サイドからフリーで打たれたり、ポストに入れられ体でもっていかれて7MTを取られたり、ワンフェイントから、半身抜かれて、シュートされ、ゴールキーパーとの関係も、うまくいかず、点差を開かれた。

後半も同じような展開で、日本はフォーメーションなど使って攻撃したが、シュートがバーに当たったり、シュートミス、パスミスなどあり、逆に、スウェーデンに、速攻をかけられ、余裕をあたえてしまった。日本も、終盤になって速攻が出たが、一気に逆転することではできなかった。

9~12位決定戦の第1戦であるブルガリアとのせりあいに敗れたことの精神的なショックがこの日も多分にひびいた感じだ。

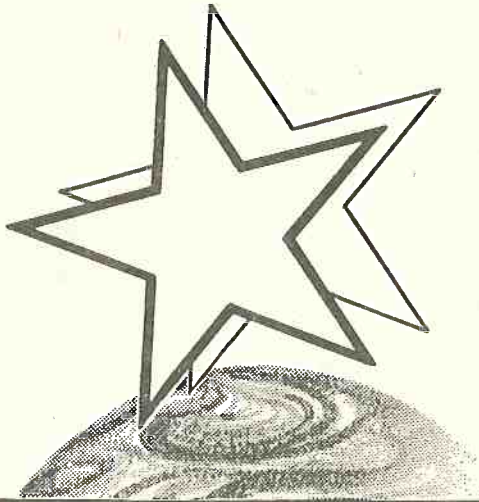
世界選手権全体をふり返ると日本は攻撃、オフフェンスの力、シュート力、ボール回しの時のスピード、個人の持っているフェイントなど、外国でもじゅうぶん通用するように、僕は感じたが、しかし日本の弱点といわれるディフェンスは今回も残念ながら認めざるを得ない。今日の試合にしても、スウェーデンは、スピードでは我々日本よりはるかに劣るのだが、それに足がついていかなかったし、ポストにボールを入れられると、体で押し込まれ7MTを取られたり、シュートされたりする。つくづく体力の差を感じた。

外国、それもヨーロッパチームの体力に打ち勝つためには、腕の力を付け、脚力、そして、一時間動いても疲れない肉体的スタミナ精神的スタミナが必要だし、チームワークも欠かせないと考える。今後、この大きな問題に取り組み日本の、早いスピードのあるハンドボールを世界で通用するよう頑張るつもりです。

なお、9~12位決定リーグに西ドイツ、スウェーデンが落ちてくるとは思わず、改めて共産圏一東欧勢の強さを思いしらされました。(FP、大同製鋼)

明日を創る

特殊鋼づくりをはじめ、工業炉から
省力・公害防止装置まで、鉄鋼・非鉄
各種生産ラインのシステムをつくる
企業、それが大同製鋼です。



★ 大同製鋼

取締役社長 武田 喜三

本社 名古屋市中区錦一丁目11-18(興銀ビル)
支社・支店 東京・大阪・福岡・札幌・広島
営業所



新発売!!

ハンドボール L E - S P

- サイズ 22.5~28.0
- カラー 白×赤オニツカライン
赤×白オニツカライン
- ¥6,700

俊敏な動きができる新鋭

先制『攻撃』用

Onitsuka 競技に適した軽くて動きのいい

Tiger

タイガー®ハンドボール

競技者を支える総合スポーツ用品メーカー **オニツカ株式会社** 神戸・大阪・東京・福岡・名古屋・仙台・札幌

今大会の決勝戦は三月十日ルーマニアと東独の間で東ベルリンスポーツホールで行われた。東独は予選Dグループでソ連と引分け、準決勝ではオリンピック優勝チームユーゴに辛じて勝つなど決勝までの道のりは決してやさしいものでなかった。ルーマニアは予選リーグでスウェーデンに負けはしたもののこれは体調を考えての負けで断然他を圧倒しての進出、グレイアが引退したあと、どの様なチームに変身したか楽しみだった。しかしこれ程の力で決勝にでくるとは想像もしていなかった。してやグレイア以上?のビルトラン(ステアウアブカレスト・1m94・97K)がでてこようとは。彼のプレーをみた時つくづくルーマニアの選手層の厚さを思い知らされた。パス、動きはぎこちないが素直なシュートはよくコントロールされ確率はグレイア以上。又、チームのバランスもオリンピックの時よりまとまりがある様に感じた。東独は地元だけに有利な面があったものの選手の表情は硬くいま一つ切れ味がなかった。みていてもやっと得点したやっと守ったという感じで余裕が感じられなかった。ゲーム前から観衆のうるさいこと、いやがうえにも場内は熱気でマンマン。見ているだけの自分も紅潮してくるがよくわかる。東独の攻撃のたびに大きな手拍子

者がでて終了間きわ速攻にあって逆にリードを許し前半8-7で終る。ルーマニア7点のうちビルトランが実に5得点、これもロングシュートばかりのもの、全く素晴らしい。リードした東独に後半ミスがでてそこをルーマニアにつかれ逆転される。このまま終ってしま



スピード豊かな決勝戦 ルーマニア対東ドイツ 木野実

も頭にくるベヌがこのゲームでは冷静でミスがなかったことはビルトランと並んで優勝の原動力であった。ルーマニアのディフェンスは前後半5分間の退場者をだしながら最少限にいとめた気力、激しさ、強さは実にすばらしかった。フットワークの早さは他のチ

で観衆とコートがいったいになり声援、ハンドボールをよく知っている自分達もハンドボールを心から楽しんでる様子だ。その手拍子の見事なこと。日本の場合はおとなしすぎるし声援もパ声になってしまふ。先手ですすんだルーマニアだったが24分5分間の退場

うかにみえたがまたしてもルーマニアに5分間の退場者がでて大ピンチを招いた。ムードも最高、攻防の激しさも殺気だつて恐ろしい程。しかし完全なノーマークシュートを二本、GKベヌが好捕、闘志のあるプレーは後半とくに光っていてルーマニアを救った。いっ

ームと問題ならなかった。ディフェンスオフフェンスの専門選手の交代の素早さ、巧みさは我々がちょっとまね出来ないものである。コーチのネデフ氏のインサイドワーカーもみのがしてはならないものだと思う。時間と得点を考えたルーマニアのベンチ、それによく精通し、しっかりベンチの指示、作戦を見事にやってのけた選手、ボールをとられてもすぐりかえす気力、気迫、本当によく訓練してある。そんなところにルーマニアの激しさ、厳しさがある様に感じた後半終了前大事な時にルーマニアサイドに7名のFPが入って攻防興奮と熱狂で計時員、記録係も見落とすほど。結局判定はフリースロー、ルーマニアにはラッキーなことだった。それにしても最後まで力が抜けた一戦で終了の時は何かが抜け疲れがどつどつとでくる様だった。攻防もスピードで醍醐味フリーのジャッジも観衆の声、ゲームの緊張感、流れにまだわされることなく大役を果たされた。終了後ルーマニアの国旗をかがけて場内を駆けまわる選手達の誇らしげな顔には本当にいままでやってきたことが報われたという喜びが溢れ実にはすがすがしく目映った。(コーチ兼FP、湧永薬品) 写真にはルーマニアのマークをかわして鋭い攻撃を見せる東独のガンシヨフ。光島磯雄氏提供

スポーツは生きる歓び

勝利を呼ぶ 3本線

adidas
アディダス
トレーニングスーツ
Made under Adidas license

日本総発売元/株式会社デザイン

急げ、日本独自の防禦技術

本田 洋

日本をはじめ各国ともミュンヘンオリンピックよりもディフェンス力が増しているにもかかわらず相手45度のロングシューターに多くのポイントを取られていた。これはフリースロー2m後の位置でジャンプされそれに対してディフェンスがボディチェックあるいは2人。3人でシュートコースを阻止しようとする動きをかわされたあと、横の位置へ移られて自由にシュート出来る態勢をとられたためである。ゴールインするロングシュートはほとんどといってよいほどこのシュートであった。

マンツーマンに対する攻撃者の個人技も素晴しくなっている。押し寄せでくるディフェンスをフットワーク、ボディワーク、ハンドリングで振り切りながらシュートチャンスをもつ。ミュンヘンオリンピック時に比べて、一対一でのオフフェンスの優位さが増していたと云えよう。

今回、ヨーロッパ各国のディフェンスはボールに対して全員が激しく動き、45度のシューターに対し、2人、3人のフォロワーの壁で守ろうとする傾向を一段と強めて

いた。本来ディフェンスは、受動的であるが、中央部でのアタックが強まればポスト、サイドへと攻撃側はノーマークのポイントを開いてゆくのは当然である。日本の野田が生かしていたサイドシュートをヨーロッパなりに工夫し、体格、ジャンプ力の優れたシャープな選手が、サイドから内側に飛び込む。右サイドから右ききの者、左サイドから左ききの者がダイビングしてくるのだ。

ヨーロッパと云えば中央部からのロング攻撃という定型を考えていてはもう古い。サイド攻撃とGKの対峙、これは今や「宿命的」なものになった感じである。ミュンヘンでは、GKはサイドシュートに対して前に詰めシュートコースをつぶしているのが多かったが、今回は、オフフェンス側はGKのとる位置をかわし、内側へそして高い位置にボールをもってきている。GKがシューターの位置を読んで、前、空間(ジャンプカッター)キャッチしようとする。これまでもおりの浮かすシュートはもちろん股下、脇横へとアランダ

スロー、サイドスローなどで射ち分けてくる。また、身体をひねり近目の上を狙ってくるのも多い。日本との試合では日本のサイド守備者側に利き腕を入れて内側へ飛びこんでくるため、サイド守備者が突いたり、引っかけたりすると7MTになり、又、少々押されてもボディワークとハンドリングでブロック(阻止)し、ゴールへ持ちこまれてしまうケースが多い。サイドシュートの多用が、今回の世界選手権で目についたヨーロッパのもともいぢるしい「新方向」であった。

ところが、世界を征服するものは優位に立つオフフェンスを抑えるディフェンス力である。ミュンヘンオリンピックでユーゴは「1、23ディフェンス」を中心とした戦術的、変則的なディフェンスシステムの技をしき、ディフェンスの個人技とチームの技を生かすことに成功した。今大会でのルーマニアは一対一を守り貫くディフェンス専門の選手を中心に「1・2・3、51・5、2・4、1・2・3、5」と臨機応変の切り替えて守り抜いた。そのディフェンスの激しい動きは時には、荒い動きと見られ、退場者が多く、全試合6ゲームで通算52分間の退場最多記録となったが、5人で堂々と守り抜くことが多かった。(編集部注・最少退場通算分数はスウェーデンの10分、日本は14分で3位)

ところで日本のオフフェンスは世界のベスト8入り出来るが、ディフェンスは出来ていない。もちろんGKもある。ヨーロッパの防禦技術と日本の求めている防禦技術とはレベルが同じである点が悪い。

初めて本場に遠征して

花輪 博

外国遠征——不安、期待、うれしさのそれは交錯です。しかし、ただまじ然と外国へ旅立つわけではなく、アジア予選を勝ち抜いて、東ドイツの本大会へ出場する目的があったのですから責任感も私の胸の中にずっしりと占めていました。

それでも、自分は自分なりの目的、といえどオーバーかもしれないが、心に決めたいいくつかのをもつて旅立ちました。とりわけ、自分の力がどの程度外国ナショナルに通じるのか、自分と対戦したチーム、プレイヤーはどのようなプレーを見せるのか、そして外国同志のゲームとはどのような「内容」なのか、という3点は、私の今回の遠征のもっとも大きな目的だったのです。

外国に於ける初戦で、私は初めて話聞くブライニング (Boeing) 観客が選手の凡失や、納得のできない判定に対して抗議するため口々に「ブー」「ブー」とやじるもの。国際試合では相手選手のプレーをこれで「威かく」することも多い(編集部注)を経験しました。イスラエルとの第1戦で、監督の指示をうけ7MTを打ちに出た時のことです。あとでこの日の観衆は八千人と聞きましたが一人一人のブライニングが自分の肩にどっしりとのしかかってくるのが七メートルラインについた時はびっくり感じられました。審判の吹く笛も聞えず審判の顔を見てから七メートルを打ちましたがキーパーの足にすい込まれ味方の期待にそえませんでした。日本でも相手側の応援に騒がれる経験はありませんが、イラエルとの試合のように観

衆すべてがあらゆる意味での応援をしてケースに出会うのは初めての経験でした。

この時、私はいかなる場合においても自分の力を十分に発揮し、それをより長く持続しなければならぬと感じ、これは今回、私がナショナルプレイヤーとして外国遠征に参加して一番大きな収穫のような気がしました。そしてこの経験は本大会で大きなプラスになったような気がします。

今まで海外遠征をされた先輩から少なからず外国チームの事を聞き、また、自分のイメージにも外国チームはロングシュートがすばらしく、また、力強い印象がありました。したがって今回にも増してすばらしかったのは外国選手のサイドシュートでした。自分の身体をうまく生かし、そしてディフェンスを利用してシュートしているように思えました。

外国チームのディフェンスはほとんど一線防衛で激しい当り、速いピストンで日本では見られない激しさですが、そのディフェンスに対してロングシュートを打つチャンスが少なくなっているため、後半身とフェイントでかわしサイドにながれ二対一をつくり、サイドで勝負する型が多くなりつつあるような気がします。サイドで二対一になった場合はほとんどが七メートルかゴールイン(失点)にな

ってしまいます。時にサイドはフォロディフェンスがないのでそのケースが多いようです。

サイドディフェンスはシューターの正面に素速く入ることが欠かせず、特に外人相手にはそれを痛切に感じました。これはサイドだけではありませんが、サイドはとなりのディフェンスのフォローがあり、体格のよい外人にはこれは非常に困難な事ですがそれをしなければどうにもならない事です。正面に入っても、当たりにいってもシューターにのりかかれて当たりについて本人がすつとばされてしまえばどうという事はないのですが、いかに相手からチャージをとるかという事が課題になると思います。それは前にも述べましたようにシューターの正面に素速く入ることが鉄則だと思います。となりのディフェンスのフォローをして素速くライン内に入らずシューターの正面に入ることは大変なことですが、なにしろこれをやらなければ7MTかゴールイン(失点)のどちらかです。

最後に、外国のナショナルプレイヤーについて記したいと思えます。一言でいうなら、彼らは一人一人が個性をもったプレイヤーであるということです。さらに、自分のポジションは誰

にも渡さないぞ、という気迫にあふれていたことも強い印象を受けました。それは、このポジションは、自分だけにしかできないのだという自信と斗志でもあるのです。どの選手も、激しい競争に勝ってナショナルプレイヤーの栄光をつかんだのであり、心・技・体三拍子のうち、一つでも欠けていたら

多かった7MTと「退場」

夏目 真治

私は競技をはなれ、世界選手権の運営などについて感じたことを書いてみたい。

〔運営面〕我々は、首都ベルリンの主会場で予選リーグがあったため、盛大な開会式に参列できた。入場行進が始まり、会長挨拶、国歌演奏などがあり、初出場の私は非常に感激した。

館内は各国のテレビ局が来ており、ヨーロッパ中に中継放送していた。

セレモニーや試合時間なども、プログラム通りに進み、又宿泊施設は、すべてこの国の通例で国営ホテル。日本はベルリンなど3都市で宿泊したが、どこも環境がよく部屋、食事也非常によかった。宿泊施設には、私服の警察官がいて護衛していた。練習場なども十分に使用することができ、会場の往復には、専用のバスでパトカー

その座を得ることができないのです。

そうした選手たちの集りであるナショナルチームが、すさまじいばかりの気迫をともなうた。プレーで60分間を終始するのは当然であり、私にとってこれは大きな感銘となつて残りました。(FP、大同製鋼)

が先導、国家がこの大会を全面的にバックアップしていることがよく判った。

〔観衆〕ヨーロッパの人々の、ハンドボールに対する知識は、日本とは比べものにならない。観客層は、日本と違い、大人の方が多く、熱狂的なファンも数多くいる。試合中は、拍手や歓声がすくく、時にはレフェリーの笛などは、聞えないときもしばしばあった。間違つた判定をした時などは、口笛やバ声で批判し、またよいプレーがあった時は、拍手で賞讃していた。特に地元の東独が攻撃の場合観衆が一丸となって手拍子で応援し、相手チームが攻撃の時は、やじなどをとばしていた。このように、ヨーロッパでは、日本で考えられないほど観客は、熱狂し、興奮するのである。

〔施設(体育館)〕日本は4都市の

体育館で試合を行なったが、どの体育館もすべて、暖房装置がありシャワールームなども完備されていた。体育館は日本と同じフロア(ウッド)であるが作りは良くなく、ハンドボールコートが一面とれるだけの広さで、観客の収容人数も、2千〜4千ぐらいの小さな体育館が多かった。また周辺でプレーが見えるように観客席は作られ、天井が低く、照明が大変明るくプレーしやすかった。体育館は日本と比べて小さいが設備は抜群で、日本もやたらに大きいばかりではなく、ゆきとどいた設備の体育館を数多く作るべきではないか

〔レフェリー〕審判は競技運営の最高責任者として、厳格さと威厳を持ってレフェリングしていたことに感心させられた。しかし、中には二人のコンビが合つてなく、又感情的に笛を吹いていた審判もいたが、全体的に、自信とプライドを持って判定していた。特に7MTと退場者が多かったことが目につき、特にエリア内とサイドシューターに対するシュートカットは、7MTのケースが多く、またプッシングやホールディングは、即退場のケースもしばしば。日本では、フリースローのケースが、退場や7MTになってしまうことが多く、日本でももっと厳しくとるべきではないかと思つた。

(FP、中京大一三重教員)

世界選手権リポート

東欧諸国の強さをこう見る

大江 隆夫

今回の世界選手権でも、ミューンヘン同様、東欧諸国のチームが、庄とろの強さで、上位7位独せんの好成绩を上げ、世界ハンドボールの中心は東欧諸国である事を我々全日本選手の心の中に焼きつけたようであった。彼らの強さの根源と、どのような環境で現在に至っているかを、今回世界選手権での体験や各役員の話などを基に書き下して見たい。

思想的に見て、共産圏の国は、国家的意識が大変に強く、又ハンドボールなど行こなうスポーツ選手は、軍隊などの職業につき、職業と、スポーツが同一的なものであり、このような世界選手権での成績が、直に給料や自分自身の地位に、はね返って来る。その面で見ると、彼らは一種の職業的なものがあり、自分の生活に勝ち負けが直接影響を受ける。このため勝負に対しての、勝つ事のしゅう念や、しゅう着心は恐ろしい程に強く、力強さ、はく力は、すばらしい。彼らのプレーの要所々々にこのような面が見られた。ダイビングシュートなどに対して、このような事は特に感じ取れ、ゴー

ルに自分の体を入れても、ポイントを上げる、などすさまじいばかりのプレーをやっている。又目の鋭さにおいても、まるで、ヒョウなどがえ物を追うような、輝きがある。このように書くと、彼らは、力強さだけで、プレーをしている感を受けるであろうが、技術的ににおいても非常にすばらしく、ボールに対するテクニクや、要所々々の瞬間的動きはすばしく、特にドリブルが、大変すばらしかった。体の動きとボールの動きが、ピタリと言って良い程に密着し、手とボールの間がまるで磁石のNSの関係を持っているような、感じを受けた。どのチームにもこのような選手は数人いたが、特に印象に残ったのは、今回優勝したルーマニアのガッツであった。彼は完全なるボール廻しであり、チャンスメーカーである。日本人と比較した場合、典型的に見ても違いはなく、彼の方が、かえって、ひん弱さを感じるほどである。パスにしても、どんな状態であっても、絶好なパスをし、体全体に目をそなえているようでありハンドボールの魔術師的な選手である。

全ての観客は彼のプレーに魅りようされてきた。このような選手が出て来るのは、一つにおいて、国家的に運動に力を入れ、スポーツ環境に恵まれて、底辺が広いからではないだろうか。幼児期において、常にボールを扱う遊びや、スポーツを行ない、この時期は非常に吸収力が強く、ボールに対しての感覚が発達し、将来ナショナルチームでプレーするのに、大切な時期だと思える。木にたとえるならば、根が大変深く、広く張っている。この基盤より、すばらしいプレーが生まれて来るのではないだろうか。東欧諸国では、国家的に見ても、たて横の命令系統が実にしっかりしており、ナショナルチームの一員だと、合宿になれば、どんな事があるとも協力組織がガッチリしており、出る事が出来、常に豊富な合宿を行かない、生活もある程度安定しているの、自分の体力限界までナショナルの一員で活躍出来る。日本では考えられないような年齢でもナショナルに所属している。この事は、体力的違いもあるけど、環境の違いがある。真のアマチュアでプレーするならば、日本などではある年齢に達すると、生活の事を考え引退せざるを得ない。

せつかく経験を積みこれからだと言う時にこのような事が起こって来る……。

今まで述べたように、東欧諸国

ユーゴスラビアでの親善試合

菊池 悟

イスラエルでのアジア予選に勝った我々は、世界選手権出場の切符を手に入れた。ユーゴスラビアをあとにしよるとした空港ではトランクの中の全ての物を開封するという凄じいチェックを受けた。テルアビブからベオグラードに到着したのは2月19日の夕暮れ間近であった。イスラエルの気候があまりにも穏やかであった為か、空港におり立つと同時に寒さを膚に感じた。空港から田園地帯を通りベオグラードのはば中央にある「スラビアホテル」に到着。東欧と称される社会主義国の中で、最も西側に近い国であろう。ベオグラードの街は、七千年以上の歴史を持つ古い街で、古い石畳の道と、よく整備された大きな街路樹とが調和して印象的であった。これがヨーロッパ的であろうか……。

いい程、グラウンドにはサッカーのゴールとハンドボールゴールとが併設してあり、日本とは異った環境でハンドボールが普及しているようである。

世界選手権を一週間後に控えて、ユーゴでの親善試合は、国際試合経験の少ない選手の多い今のメンバーは、非常に大切に行なわなければならない試合であり、チームとしても最後の調整を行わなければならないかった。

第一戦は、ベオグラードのピオニール体育館で行なわれた。(この体育館は、女子の世界選手権の主会場であり優勝戦も行なわれた所である)。日本チームと同様に、ユーゴも世界選手権を控えての合宿中であり、昨年来日したチームのデータでこの試合に臨んだ。試合前、廊下ですれ違ふ我々に「ドボルダン(こんにちわ)」と、にこやかに握手を求めてくれ我々もそれに答えた。昨年来日したメンバーに二・三名の補強をしていたが皆なじみのある顔である。前半15-8となれば試合を決められた

の強さは、このような国家的思想の違いや、環境の違いより発しているものと思われた。(FP、三菱レイヨン大竹)

○……今回の世界選手権で各国はミュンヘン後どの程度メンバーを入れ替えただろうか。

オリンピックにおける採用は世界選手権をオリンピックの中間年のイベントにかえ(あるいはこの考えはオリンピック至上主義の日本独得のもので、世界選手権の中間年にオリンピックがある、というほうが正しいかもしれないが)、各国の頂点強化施策に微妙な変化の兆をのぞかせはじめています。

○……ミュンヘン五輪のプログラムと、今回、報道関係に配達された選手名簿をもとに調べてみると別表のようになった。

連続出場とはミュンヘン一回を指し、復帰とは第7回世界選手権(昭45、パリ)に出場しながらミュンヘン代表にもれていた選手で、西ドイツのムンケシュミット、日本の藤中などだ

○……今回の主力が、2年後のモントリオールオリンピックでも中心となることは明さらかたが、さすがに各国とも、例年とはちがって初出場組を最低3選手は送りこみ、連続出場者より「初」が上廻っている国が5カ国もあったのは注目してよい。

初出場者8人の東ドイツが準優勝したことで、モントリオールの金メダルは、早くも同国を

一番手に推す人もいるほどだ。

○……日本は桁はずれ。思い切りがよすぎた、という内外の声も肯けぬことはない。それに、各国と差があるのは、新人でも公式国際試合が平均25試合をこしている点である。ナショナルプレイヤーになるまでのキャリアをうかがわねば。

○……全般的な印象としてはグレイア(ルーマニア)、ルブキング(西ドイツ)、マロシ(ハンガリー)などの「引退」はあったものの、各国の主軸はいぜん変わらなず、じっくりと新旧交代を策しているといつてよい。

東ドイツ、ハンガリーをはじめ日本の長期策戦や、かつてない切り替えてベストへ返り咲いたデンマークなどの「若返り」勢が、その効果をどう表すか。評価はやはりモントリオール後ということになるか。【杉】

連続出場	初出場	復帰
12	3	1
7	8	1
11	5	0
10	6	1
6	9	0
10	6	0
7	6	0
6	8	2
3	9	1
13	3	1
11	3	1

が、後半は失点を抑える事だけを目的に行なったが、結果は36-24と完敗であった。ロングシューターとポストマンの絶妙のコンビプレー、日本が得意とする速攻も逆にユーゴのものとなっていた。エントリーマンパーをフルに生かして、オフエンス、ディフェンスをうまく使い分ける相手に対し、終始ペースのつかめぬまま終わった試合であった。日本の防禦力の課題がそのまま出た試合であった。

第二戦は、ユーゴの主力であるポクラヤクの生まれたパンチョボの体育館で行なわれた。観衆も第一戦より多く、太鼓、笛などの鳴る騒々しい応援の中で、前半は一点を争う好ゲームを展開した。第一戦の反省を基に防禦の徹底、そして攻撃はユーゴの一・二・三システムをポストの動きと早いボール回りで徐々に崩していき10-12で前半を終了した。このペースで後半も続ける事が、我々の最も重要なポイントであったように思う

が、後半のなかばすぎから相手のスピードに押され始め、防禦の要であった中井選手を負傷退場後は攻撃でのミスが連続して発生し、そのまま失点に結びついていった。特に後半、第一戦でも見られた息切れが感じられ、防禦の甘さをつかれた感がある。チームのペーイスを全員がつかみ、防禦力が世界選手権で勝負につながるである

うという事を体で感じとった経験が、大きな収穫であったと思う。又、日本が従来得意としていた速攻やスカイプレーなどは、この二試合では発揮できなかった。それは、相手の早い潰し、パスコースに入りながらの早い戻り、そしてサイドに至ってはほとんどマンツーマンでマークされているなどの点である。体の小さい我々のようなチームは、このような問題に今後何度も遭遇するであろうと思う。攻撃面の問題も、守備面の問題もいっしょに解決していかねばなるまい。国際試合で、十点を差をつけられるという事は、A級とC級の力の差があるといえるのではないかなどと今さらながら本場の強さを認識することが多かった。

松舞台登場への緊張を前にベオグラードの街の西方にある中世の城跡から眼下に眺めるドナウ川の雄大でそして優雅な流れがこの遠征をより印象強いものにしてくれた。(FP、早大)

プリバニツチ姿消す
すっかり顔なじみとなった日本とユーゴ。たがいの消息交かんも親しみにあふれたのだが、昨秋来日の14名のうち速攻の主役プリバニツチだけが今回のエントリ(世界選手権)からはずれていた本番ではホルバット主将が20ゴールで気を吐いたほか、L.L砲は二人で35ゴール。

省力化に貢献する

工業ファスナーのコンサルタント

株式会社 大山商会

大阪市浪速区元町2丁目108番地 電話(大阪)06-632-2241(代表)

HONDAは無公害時代のパイオニア!!



《世界のホンダ》を支えるホンダイズムとはフェアプレイを土台にした“先駆者の精神”です。先人の追従でなく、あくまでも自らの手でよりよい製品をより早く世に出すこと……それは究極的にはスポーツ精神と同じ“自分との闘い”です。



本田技研工業(株)鈴鹿製作所
三重県鈴鹿市平田町1907 ☎(0593)78-1212 513

厚く、深い底刻み、
フット・ワーク優先の
合理シューズ



- 力のロス、横スベリを解消した合理設計で定評高い斜線模様の特種モールド底。(パテント出願中)
- 厚く、彫りの深い底、中底はユニークな弾性を誇る二重スポンジ・クッション。
- 表布と裏布を離した袋状アッパーで、快適な足扱い、軽快な履き心地。
- ブルー、金茶のカラー・フルなデザイン。
- 要部に革補強。



ハンドベアー

デラックス〈HX〉 ●サイズ=22.5~29 ●ブルー・金茶 ●¥2,800

神戸 **ベアー株式会社** 東京

●全国有名スポーツ品店、百貨店でお求め下さい。

ハンドボールを「社技」に採用 B S

ブリジストン・タイヤでは社員健康、体育のためハンドボールに着目、「社技」として奨励しているが、このほど同社人材育成研修所（福岡県久留米市の体育館で、各工場から集められた42名のリーダー）に対し「ハンドボールトレーナー」の研修を行った。

同社では、ルールが比較的簡単で誰にでも手軽にでき、そのうえ身体の調和的発達や、産業人にもつとも必要な安全能力に役立つスポーツとしてハンドボールを高く評価、かねてから熱心な指導を行っているが、今回の研修は、毎日午前6時から午後10時までというハードスケジュールのなかで、競技規則、基本動作、指導法、審判法などを5日間にわたって指導するという徹底ぶりだった。日頃激しいスポーツに遠ざかっているリーダーたちは、歯をくいしばりながらも習得に懸命で、最終日の交歓試合では、最初の頃とは見違えるようなボール捌きを見せ、指導にあたった人々も、感無量の面持ちだった。

閉講式では、各職場へのハンドボール普及を誓いあい、それぞれの工場に散っていったが、これら

のリーダーたちによる「成果」は6月23日久留米工場で開かれる予定の「全社ハンドボール大会」にあらわれるわけで、社内では、今からその話題に花が咲いている。

なお、研修最終日には、熊本から井薫氏(48年度全日本女子監督)が招かれ、実技、審判法について指導を行ったが、同社では各工場

愛知教員が韓国へ遠征

昨年度全日本教職員4位の愛知教員クラブ(伊藤和夫団長、角敏昭監督ら役員7、選手21名)は3月24日から28日まで韓国に遠征、釜山、ソウルなどで地元チームと3試合を行い2勝1引分だった。

▽第1戦(3月24日・釜山)
愛知教員 16(7-9) 釜山教員 9(7-13)

▽第2戦(3月25日・ソウル)
愛知教員 20(13-7) 韓国外語大 14(9-7)

▽第3戦(3月27日・ソウル)
愛知教員 15(11-4) ソウル教員 15(11-5)

△後記▽今回の親善試合は、釜山とソウルでの試合であり、しかもソウルでの滞在が主であったため韓国のはんの一部分にしか接する

の最奇のハンドボール関係者の指導と支援を望んでいる。
(長野農夫男・福岡協合理事)

編集部に連絡されたブリジストンタイヤの工場所在地は次の通り
栃木(黒磯市)、那須(同上)、上尾(上尾市)、東京(小平市)、横浜(横浜市戸塚区)、彦根(彦根市)、下関(下関市)、鳥栖(鳥栖市)、久留米(久留米市)、甘木(甘木市)、熊本(玉名市)。

得00002222122303
浩変元変男錫敷植忠経述甲
ウ大享鐘浄武康炳文在甲正鐘
【雀沈成金白徐高李柳金孟朴】
GK F P 審李時黙
【内田藤浦縄津川本島田山井】
愛竹梶斎松長深細松川山小細
得003326001000
▽交代【愛】FP本多、古宮、富田(いずれも得0)

機会がなかったのは残念であった。しかし、教員チームということ、で、慶熙大学付属の国民学校と女子高・中学校の訪問及び、外国語大学での視聴覚教育の見学が行程に組み込まれていたのと、ちょうどソウル滞在中、高・中学校の全国大会予選兼日韓高校親善試合選抜の予選が行なわれており、韓国ハ

各地の記録

▼茨城県一般春季選手権(4月・自衛隊勝田) 男子のみ
▽予選リーグA組
自衛隊勝田 21 13 茨城大
茨城大 25 20 新治ク
自衛隊勝田 28 9 新治ク
▽同B組
原研 27 12 古河自衛隊
古河自衛隊 19 15 土浦三高OB
原研 28 10 土浦三高OB
▽3位決定戦
茨城大 17 6 古河自衛隊

▽決勝
自衛隊勝田 24(13-11) 9 原研
男子は丸善石油が快勝
▼第9回和歌山県山下室内選手権(3月・打田町立体育館)
▽男子準々決勝
丸善石油 21 3 桐蔭OB
那賀高 11(延) 9 御坊商工高
御坊OB 13 12 丸善スワロー
住友金属 10 8 市和歌山商高
▽同準決勝
丸善石油 16 8 那賀高
御坊OB 10 9 住友金属
▽同決勝
丸善石油 15 7 御坊OB
▽女子決勝リーグ
粉河高 8 6 県立和歌山商高
御坊商工高 6 4 県立和歌山商高
粉河高 5 4 御坊商工高
1勝1敗 ③県立和歌山商高 2敗

ンドボール界の一端を見ることができたのは幸いだった。
高校・中学の大会を見て、その闘志は目を見はらされるものがあり、日本では想像できないほどのもので、特に、試合そのものに対して、又、ボールに対しての執着心の強さは、我々も多いに見習うべきと痛感させられた。さらに、応援も、自校の試合の時間には、生徒がぞくぞくつめかけ二千人以上が、プレートの一つ一つにかん声をあげ、時にはレフエリーのホイッスルも聞き取りにくいほどであった。このような応援の中でプレーできる高校生や中学生がうらやましく思われたと同時に一般生徒への普及に感心した。同じ会場で行なわれた我々とソウル教員の試合も、やはりプレーがはげしく、又、応援の多い中で行ない3戦のうちもっとも緊張した試合となった。
外国の状態を直接肌と感じ、刺激を受け、視野を広めてゆくことは、ハンドボールをする上でも又教師としても非常に有意義なことであり、今後こうした交流の機会が増すことを望みたいと思う。
おわりに今回の遠征にあたり、非公式なものにもかかわらず、日韓両国の方々から御協力をいただきましたことを厚く感謝いたします。(浅田邦雄・遠征選手団総務名古屋市立中央高教諭)

九州高校生選抜

久留米工と熊本女商勝つ

第2回九州高校生選抜大会は3月28日から30日までの3日間、北九州市立総合体育館で開かれた。沖繩県は不参加だったが九州7

県から男子16、女子15校が出場、予選リーグのあと、ベストフォアによる決勝トーナメントを行い、男子は福岡同士の優勝争いとなり久留米工が、後半一気に若松を押し切り初優勝、女子は熊本勢の争奪で、熊本女商が、延長の末、熊本市立を降し、栄冠を手にした。

鹿児島工	15	—	9	大分商		
▽同B組						
熊本一工	14	—	6	長崎工		
久留米工(福岡)	17	—	13	大分東		
久留米工	8	—	6	熊本一工		
大分東	18	—	11	長崎工		
大分東	15(分)	15		熊本一工		
久留米工	18	—	10	長崎工		
▽同C組						
済々黷	熊本19	—	13	佐賀農		
福岡工	6(分)	6		都城泉丘(宮崎)		
都城泉丘	25	—	9	佐賀農		
済々黷	11	—	8	福岡工		
福岡工	16	—	8	佐賀農		
済々黷	13	—	10	都城泉丘		
▽同D組						
鹿町工(長崎)	22	—	6	準人工(鹿児)		
小倉西(福岡)	20	—	11	宮崎工		
鹿町工	23	—	8	宮崎工		
小倉西	13	—	10	準人工		
小倉西	9(分)	9		鹿町工		
準人工	10(分)	10		宮崎工		
▽同決勝トーナメント1回戦						
久留米工	13(7)	—	6(6)	12	済々黷	
若松	8(6)	—	2(2)	3	5	鹿町工
▽同決勝						
久留米工	12(7)	—	5(5)	6	若松	
▽女子予選リーグA組						
神崎農(佐賀)	7	—	3	佐世保北(長崎)		
都城西(宮崎)	7	—	6	筑紫女(福岡)		
神崎農	12	—	3	都城西		
佐世保北	5(分)	5		筑紫女		
神崎農	6	—	1	筑紫女		
佐世保北	8	—	5	都城西		
▽同B組(3校)						
熊本女商	7	—	6	財部(鹿児島)		
熊本女商	11	—	3	福岡女		

「高校選抜大会」の検討を

春の高校スポーツイベントが3月末から華やかに行われていましたが、ハンドボールがないのはいかにも残念です。

関係者のかたは、いろいろと検討はされていると思いますが是非、この2、3年のうちに、「センバツ高校ハンドボール」を開催されるよう希望いたします。

投書欄 明日への提言

ハイだけになります。私の住んでおります東海地区は、昨年プロック高校大会をこれまでの6月だけから、2月にも設け、部員たちに大きな

はげみになっています。

全国大会も是非、夏と春に開かれるよう期待したいものです。すでに各県では、秋以降にほとんど、新入大会を開いているのですから、体制づくりはわりあい楽に進められると思います。

全都道府県参加がむりなら、ブロック代表による16校程度のトーナメントでも最初はよろしいかと考えます【愛知・KA生 高校指導者】

★編集後記

□……ゼネストを頂点とする春闘の波をまともなうけ、先月号が、皆様の手に届いたのは4月のなかばになってしまったようです。東京近郊の読者から「早く読みたい、日本協会へ取りに行く」という電話も寄せられましたが、待っていて下さる皆さんに申し訳なく思っています。

□……今月号にも、この影響は大で、依頼原稿の配達が遅れたため、いろいろなしわ寄せが起き、一部、次号まわしになったものもあります。御了承下さい。原則として記録以外の切りは毎月10日、夕書き(用紙自由)。ハンドボールに関する事なら、なんでも受けつけるつもりです。

□……多くのかたから要望のある写真特集。光島磯雄氏のご厚意で試みる事ができました。渡欧して撮りまくったなかから提供されたもので、この場を借りてお礼申しあげます。

今後、素材、作品など特集を組むにたるイベントを見つめるつもりです。□……いよいよ新シーズン。モントリオールのあし音もそろそろ聞こえてきそうです。去年にまさる活気を期待したいものです。(S・S)

長野協会の新役員

長野協会はこれほど49年度新役員を次のように決め発表した。

▽会長 戸塚一(県会議員)▽理事長 柳沢民弥▽理事 小田川利男、藤雅之▽常任理事 小田川利男、中沢正己、望月豊、白田清次、中島恒夫、青木崇

【訂正】本誌前号12頁2段目左から5行目を次のように訂正「中大の山村、法大の川島らを……」。

★節電時代のエース★

大崎の

タイムスイッチ



《特長》

- 36時間の停電補償付
- 機種が豊富で用途別に選択が可能
- 消費電力が小さい（約2W）
- スイッチ容量が大（30A）
- 1台で3回路まで制御が可能

上手なコンビネーションで、予想以上の節電が可能です。

日間・週間・年間の自動定時入切はもちろん、独自のソーラーダイヤルによる日没・日の出時刻の照度に合わせた入切の季節自動修正装置付です。

工場でもオフィスでも、電力・電灯を問わず、出勤・退社に合わせ、また季節による日照・日没に従って、全体または部分的にいちいち人手によらず自動的に入切ができます。

信頼度絶大・メンテナンスフリーの大崎のタイムスイッチをこの際、是非御利用下さい。

大崎電気工業株式会社

〒141 東京都品川区東五反田2丁目2-7
電話(03) 4 4 3-7 1 7 1 (大代表)

信頼・技術・情熱

スポーツマンと同じ道をブラザーは歩みます。

ミシン・編機・家庭電化製品・楽器・事務機・工作機……姿・形はちがっても、ブラザー製品の支えはひとつです。信頼される品質を作るすぐれた技術、製品にかけた情熱……スポーツマンと同じ道です。



BROTHER
ブラザー

ブラザー工業株式会社
ブラザーミシン販売株式会社

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』

第一一九号

昭和四十年六月七日
第三種郵便物認可

昭和四十九年四月二十五日印刷 発行所
昭和四十九年五月一日発行 日本ハンドボール協会

東京都渋谷区神南一丁目
電話 大代(電)二二一
振替 東京五八三〇四八番

編集兼 保坂周助
発行人

定価二百五十円
二年間購読料
二千三百円